

外国語履修について（健康栄養学部・健康福祉学部）

外国語の種類と卒業要件としての単位数

必修	4単位	英語表現Ⅰ 総合英語Ⅰ	英語表現Ⅱ 総合英語Ⅱ
選択必修	下記科目の中から2単位以上	英語会話Ⅰ、英語会話Ⅱ 上級英語Ⅰ、上級英語Ⅱ フランス語（初級）、フランス語（中級） ドイツ語（初級）、ドイツ語（中級） 中国語（初級）、中国語（中級） 韓国語（初級）、韓国語（中級）	

必修英語について

（配当学年、学期、単位）

1年次	前期	英語表現Ⅰ（1単位）	後期	総合英語Ⅰ（1単位）
2年次	前期	英語表現Ⅱ（1単位）	後期	総合英語Ⅱ（1単位）

（クラス編成）

- ① 2年次のクラスは、1年次後期末の授業時に Placement Test を行い、その結果等に基づいてクラス編成を行う。（2年次前期、後期とも同一クラス、担当教員は学期毎に変更）
- ② 1年次、2年次のいずれかの学期に単位を取得できなかった場合、次年次以降に原則として再履修クラスで再履修すること。再履修にあたっては、専門科目と重なって履修できないことが起こりがちなので、配当学年・学期で修得するよう努力すること。

再履修クラス	前期	総合英語Ⅰ－再、	総合英語Ⅱ－再
	後期	英語表現Ⅰ－再、	英語表現Ⅱ－再

（テキスト、シラバス）

- ① テキストおよびシラバスは、本「授業計画（Syllabus）」に掲載する。
- ② テキストは各学期開始時に販売する。
テキストは必ず事前に購入して授業に臨むこと。

選択必修科目（英語会話、上級英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語）について

（配当学年、学期、単位）

1年次	前期	英語会話Ⅰ（1単位） ドイツ語（初級）（1単位） フランス語（初級）（1単位） 中国語（初級）（1単位） 韓国語（初級）（1単位）	後期	英語会話Ⅱ（1単位） ドイツ語（中級）（1単位） フランス語（中級）（1単位） 中国語（中級）（1単位） 韓国語（中級）（1単位）
3年次			後期	上級英語Ⅰ（1単位）
4年次	前期	上級英語Ⅱ（1単位）		

- ① 英語会話Ⅰ、Ⅱは原則として外国人教師が担当する。受講希望者が多い場合、受講調整を行うことがあるので、掲示に注意し、必ず第1週目の授業に出席すること。
- ② 上級英語Ⅰ、Ⅱは、主として、教員、公務員志望者、大学院進学希望者、及び、英語読解力の向上に関心のある者を対象に、英語の読解力の更なる向上を目指す。
- ③ ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の「中級」を受講する者は、同種科目の「初級」を既に修得した者に限る。
- ④ 受講希望者が多い場合、受講調整を行うことがあるので、掲示に注意すること。

外国語履修について(リハビリテーション学部・子ども学部)

外国語の種類と卒業要件としての単位数

必修	4単位	英語表現Ⅰ 総合英語Ⅰ	英語表現Ⅱ 総合英語Ⅱ
選択必修	下記科目の中から2単位以上	英語会話Ⅰ、英語会話Ⅱ 上級英語Ⅰ、上級英語Ⅱ フランス語(初級)、フランス語(中級) ドイツ語(初級)、ドイツ語(中級) 中国語(初級)、中国語(中級) 韓国語(初級)、韓国語(中級)	

必修英語について

(配当学年、学期、単位)

1年次	前期	英語表現Ⅰ(1単位)	後期	総合英語Ⅰ(1単位)
2年次	前期	英語表現Ⅱ(1単位)	後期	総合英語Ⅱ(1単位)

(テキスト、シラバス)

- ① テキストおよびシラバスは、本「授業計画(Syllabus)」に掲載する。
- ② テキストは各学期開始時に販売する。
テキストは必ず事前に購入して授業に臨むこと。
- ③ 1年次、2年次のいずれかの学期に単位を取得できなかった場合、次年次以降に原則として再履修クラスで再履修すること。
再履修にあたっては、専門科目と重なって履修できない事が起こりがちなので、配当学年、学期で修得するよう努力すること。

再履修クラス	前期	総合英語Ⅰ－再、	総合英語Ⅱ－再
	後期	英語表現Ⅰ－再、	英語表現Ⅱ－再

選択必修科目(英語会話、上級英語、ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語)について

(配当学年、学期、単位)

1年次	前期	英語会話Ⅰ(1単位) ドイツ語(初級)(1単位) フランス語(初級)(1単位) 中国語(初級)(1単位) 韓国語(初級)(1単位)	後期	英語会話Ⅱ(1単位) ドイツ語(中級)(1単位) フランス語(中級)(1単位) 中国語(中級)(1単位) 韓国語(中級)(1単位)
3年次			後期	上級英語Ⅰ(1単位)
4年次	前期	上級英語Ⅱ(1単位)		

- ① 英語会話Ⅰ、Ⅱは、原則として外国人教師が担当する。受講希望者が多い場合、受講調整を行うことがあるので、掲示に注意し、必ず第1週目の授業に出席すること。
- ② 上級英語Ⅰ、Ⅱは、主として、教員、公務員志望者、大学院進学希望者、及び、英語読解力の向上に関心のある者を対象に、英語の読解力の更なる向上を目指す。
- ③ ドイツ語、フランス語、中国語、韓国語の「中級」を受講する者は、同種科目の「初級」を既に修得した者に限る。
- ④ 受講希望者が多い場合、受講調整を行うことがあるので、掲示に注意すること。

科目名	英語表現 I【健栄S・社福スポ合同Q】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	幸 山 智 子						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) Pair Work によって会話コミュニケーション力をつける。 4) 基本動詞の正しい活用をマスターできる。 5) 基本動詞を使った平易な疑問文を作文できる。 6) 頻度の表現を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えができる。 8) 指定された不定詞を用いて、自分の身の回りに起こった出来事について説明できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な会話文を聞き取ることができる。						
学習方法	演習、発表、eラーニング教材を使用する。						
テキスト及び参考書等	Grammar Compass (センテージ)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			○			10	
その他	○	○	○		○	40	
	e教材の達成率						
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	イントロダクション						
第 2 週	Unit 1 名詞・冠詞						
第 3 週	Unit 3 be 動詞・形容詞・前置詞						
第 4 週	eラーニング教材の説明と試用 ※eラーニング教材① (be 動詞・一般動詞) ② (名詞・冠詞・代名詞)						
第 5 週	Unit 4 疑問文						
第 6 週	Unit 6 現在進行形・未来の表現						
第 7 週	※eラーニング教材 ③ (形容詞・副詞) ④ (疑問文)						
第 8 週	Unit 8 比較級・最上級						
第 9 週	Unit 9 動名詞・不定詞						
第 10 週	※eラーニング教材 ⑤ (現在・過去・未来) ⑪ (比較) ⑧ (不定詞)						
第 11 週	Unit10 助動詞						
第 12 週	Unit11 受動態						
第 13 週	※eラーニング教材⑥ (進行形・助動詞⑩ (動名詞・分詞) ⑫ (受身)						
第 14 週	補助教材による理解度チェック						
第 15 週	前期のまとめ						
第 16 週	定期試験						
備 考	eラーニングの週には必ず大学 PC にログインするための ID およびパスワードを持ってくること。 毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 授業中、携帯電話の電源は OFF にすること。 授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示: eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現 I【健栄T・社福スポ合同O】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	雨 森 未 来						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授 業 の 到達目標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) Pair Work によって会話コミュニケーション力をつける。 4) 基本動詞の正しい活用をマスターできる。 5) 基本動詞を使った平易な疑問文を作文できる。 6) 頻度の表現を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えができる。 8) 指定された不定詞を用いて、自分の身の回りに起こった出来事について説明できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な会話文を聴き取ることができる。						
学習方法	演習、発表、eラーニング教材を使用する。						
テキスト及 び参考書等	Grammar Compass (センテージ)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎	○		40	
	e教材の達成率						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス及び Unit 1 名詞・冠詞						
第 2 週	eラーニング教材の説明と試用 ※eラーニング教材② (名詞・冠詞・代名詞)						
第 3 週	Unit 3 be 動詞・形容詞・前置詞						
第 4 週	Unit 4 疑問文						
第 5 週	※eラーニング教材 ① (be 動詞・一般動詞) ③ (形容詞・副詞) ④ (疑問文)						
第 6 週	Unit 6 現在進行形・未来の表現						
第 7 週	Unit 8 比較級・最上級						
第 8 週	※eラーニング教材 ⑤ (現在・過去・未来) ⑥ (進行形・助動詞) ⑪ (比較)						
第 9 週	Unit 9 動名詞・不定詞						
第 10 週	Unit 10 助動詞						
第 11 週	※eラーニング教材 ⑧ (不定詞) ⑩ (動名詞・分詞)						
第 12 週	Unit 11 受動態						
第 13 週	補助教材による学習到達度確認						
第 14 週	※eラーニング教材 ⑫ (受身)						
第 15 週	前期の復習						
第 16 週	定期試験						
備 考	第 2 週目授業時には必ず大学 PC にログインするための ID およびパスワードを持ってくること。 毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 授業中、携帯電話の電源は OFF にすること。 授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示 : eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現 I 【健栄U】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	渡 邊 真理子						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授業の 到達目標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) Pair Work によって会話コミュニケーション力をつける。 4) 基本動詞の正しい活用をマスターできる。 5) 基本動詞を使った平易な疑問文を作文できる。 6) 頻度の表現を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えができる。 8) 指定された不定詞を用いて、自分の身の回りに起こった出来事について説明できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な会話文を聞き取ることができる。						
学習方法	演習、発表、eラーニング教材を使用する。						
テキスト及 び参考書等	Grammar Compass (センテージ)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			○			10	
その他	○	○	○	○		40	
	e教材の達成率						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	イントロダクション						
第 2 週	Unit 1 名詞・冠詞						
第 3 週	eラーニング教材の説明と試用 ※eラーニング教材② (名詞・冠詞・代名詞)						
第 4 週	Unit 3 be 動詞・形容詞・前置詞						
第 5 週	Unit 4 疑問文						
第 6 週	※eラーニング教材 ① (be 動詞・一般動詞) ③ (形容詞・副詞) ④ (疑問文)						
第 7 週	Unit 6 現在進行形・未来の表現						
第 8 週	Unit 8 比較級・最上級						
第 9 週	※eラーニング教材 ⑤ (現在・過去・未来) ⑪ (比較)						
第 10 週	Unit 9 動名詞・不定詞						
第 11 週	Unit10 助動詞						
第 12 週	※eラーニング教材⑥ (進行形・助動詞) ⑧ (不定詞) ⑩ (動名詞・分詞) ⑫ (受身)						
第 13 週	Unit11 受動態						
第 14 週	補助教材による理解度チェック						
第 15 週	※eラーニング教材の復習と前期のまとめ						
第 16 週							
備考	eラーニングの週には必ず大学 PC にログインするための ID およびパスワードを持ってくること。 毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 授業中、携帯電話の電源は OFF にすること。 授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示: eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現 I 【社福スポ合同P】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	大 城 綾 子						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授 業 の 到達目標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) Pair Work によって会話コミュニケーション力をつける。 4) 基本動詞の正しい活用をマスターできる。 5) 基本動詞を使った平易な疑問文を作文できる。 6) 頻度の表現を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えができる。 8) 指定された不定詞を用いて、自分の身の回りに起こった出来事について説明できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な会話文を聞き取ることができる。						
学習方法	演習、発表、eラーニング教材を使用する。						
テキスト及び参考書等	Grammar Compass (センテージ)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎	○		40	
	e教材の達成率						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	イントロダクション						
第 2 週	Unit 1 名詞・冠詞						
第 3 週	eラーニング教材の説明と試用 ※eラーニング教材② (名詞・冠詞・代名詞)						
第 4 週	Unit 3 be 動詞・形容詞・前置詞						
第 5 週	Unit 4 疑問文						
第 6 週	※eラーニング教材 ① (be 動詞・一般動詞) ③ (形容詞・副詞) ④ (疑問文)						
第 7 週	Unit 6 現在進行形・未来の表現						
第 8 週	Unit 8 比較級・最上級						
第 9 週	※eラーニング教材 ⑤ (現在・過去・未来) ⑪ (比較)						
第 10 週	Unit 9 動名詞・不定詞						
第 11 週	Unit10 助動詞						
第 12 週	※eラーニング教材⑥ (進行形・助動詞) ⑧ (不定詞) ⑩ (動名詞・分詞)						
第 13 週	Unit11 受動態						
第 14 週	補助教材による理解度チェック						
第 15 週	※eラーニング教材⑫ (受身)						
第 16 週	定期試験						
備 考	eラーニングの週には必ず大学 PC にログインするための ID およびパスワードを持ってくること。 毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 授業中、携帯電話の電源は OFF にすること。 授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示 : eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現 I 【リハA】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	浅 岡 高 子						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) Pair Work によって会話コミュニケーション力をつける。 4) 基本動詞の正しい活用をマスターできる。 5) 基本動詞を使った平易な疑問文を作文できる。 6) 頻度の表現を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えができる。 8) 指定された不定詞を用いて、自分の身の回りに起こった出来事について説明できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な会話文を聞き取ることができる。						
学習方法	演習、発表、eラーニング教材を使用する。						
テキスト及び参考書等	Grammar Compass (センテージ)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎	○		40	
	e教材の達成率						
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	イントロダクション						
第 2 週	Unit 1 名詞・冠詞						
第 3 週	Unit 3 be 動詞・形容詞・前置詞						
第 4 週	eラーニング教材の説明と試用 ※eラーニング教材①(be 動詞・一般動詞) ② (名詞・冠詞・代名詞)						
第 5 週	Unit 4 疑問文						
第 6 週	Unit 6 現在進行形・未来の表現						
第 7 週	※eラーニング教材③(形容詞・副詞) ④(疑問文)						
第 8 週	Unit 8 比較級・最上級						
第 9 週	Unit 9 動名詞・不定詞						
第 10 週	※eラーニング教材⑤ (現在・過去・未来) ⑪ (比較) ⑧ (不定詞)						
第 11 週	Unit10 助動詞						
第 12 週	Unit11 受動態						
第 13 週	※eラーニング教材⑥ (進行形・助動詞⑩ (動名詞・分詞) ⑫ (受身)						
第 14 週	補助教材による理解度チェック						
第 15 週	前期のまとめ						
第 16 週	定期試験						
備 考	eラーニングの週には必ず大学 PC にログインするための ID およびパスワードを持ってくること。 毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 授業中、携帯電話の電源は OFF にすること。 授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示: eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現 I 【リハB】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	矢ヶ部 あかり						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授 業 の 到達目標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) Pair Work によって会話コミュニケーション力をつける。 4) 基本動詞の正しい活用をマスターできる。 5) 基本動詞を使った平易な疑問文を作文できる。 6) 頻度の表現を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えができる。 8) 指定された不定詞を用いて、自分の身の回りに起こった出来事について説明できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な会話文を聴き取ることができる。						
学習方法	演習、発表、eラーニング教材を使用する。						
テキスト及び参考書等	Grammar Compass (センテージ)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎	○		40	
	e教材の達成率						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	イントロダクション						
第 2 週	Unit 1 名詞・冠詞						
第 3 週	eラーニング教材の説明と試用 ※eラーニング教材② (名詞・冠詞・代名詞)						
第 4 週	Unit 3 be 動詞・形容詞・前置詞						
第 5 週	Unit 4 疑問文						
第 6 週	※eラーニング教材① (be 動詞・一般動詞) ③ (形容詞・副詞) ④ (疑問文)						
第 7 週	Unit 6 現在進行形・未来の表現						
第 8 週	Unit 8 比較級・最上級						
第 9 週	※eラーニング教材⑤ (現在・過去・未来) ⑪ (比較)						
第 10 週	Unit 9 動名詞・不定詞						
第 11 週	Unit10 助動詞						
第 12 週	※eラーニング教材⑥ (進行形・助動詞) ⑧ (不定詞) ⑩ (動名詞・分詞) ⑫ (受身)						
第 13 週	Unit11 受動態						
第 14 週	補助教材による理解度チェック						
第 15 週	前期のまとめ						
第 16 週	定期試験						
備 考	eラーニングの週には必ず大学 PC にログインするための ID およびパスワードを持ってくること。 毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 授業中、携帯電話の電源は OFF にすること。 授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示 : eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現 I 【リハC】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	園 部 ニ コ ル						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授業の 到達目標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) Pair Work によって会話コミュニケーション力をつける。 4) 基本動詞の正しい活用をマスターできる。 5) 基本動詞を使った平易な疑問文を作文できる。 6) 頻度の表現を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えができる。 8) 指定された不定詞を用いて、自分の身の回りに起こった出来事について説明できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な会話文を聴き取ることができる。						
学習方法	演習、発表、eラーニング教材を使用する。						
テキスト及び参考書等	Grammar Compass (センページ)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			○			10	
その他	○	○	○	○		40	
	e教材の達成率						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス及び Unit 1 名詞・冠詞						
第 2 週	eラーニング教材の説明と試用 ※eラーニング教材② (名詞・冠詞・代名詞)						
第 3 週	Unit 3 be 動詞・形容詞・前置詞						
第 4 週	Unit 4 疑問文						
第 5 週	※eラーニング教材 ① (be 動詞・一般動詞) ③ (形容詞・副詞) ④ (疑問文)						
第 6 週	Unit 6 現在進行形・未来の表現						
第 7 週	Unit 8 比較級・最上級						
第 8 週	※eラーニング教材 ⑤ (現在・過去・未来) ⑥ (進行形・助動詞) ⑪ (比較)						
第 9 週	Unit 9 動名詞・不定詞						
第 10 週	Unit 10 助動詞						
第 11 週	※eラーニング教材 ⑧ (不定詞) ⑩ (動名詞・分詞)						
第 12 週	Unit 11 受動態						
第 13 週	補助教材による学習到達度確認						
第 14 週	※eラーニング教材 ⑫ (受身)						
第 15 週	復習とまとめ						
第 16 週							
備考	第 2 週目授業時には必ず大学 PC にログインするための ID およびパスワードを持ってくること。 毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 授業中、携帯電話の電源は OFF にすること。 授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示: eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現 I 【子ども a】					開講 キャンパス	神園
担当者	矢ヶ部 あかり						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授業の 到達目標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) Pair Work によって会話コミュニケーション力をつける。 4) 基本動詞の正しい活用をマスターできる。 5) 基本動詞を使った平易な疑問文を作文できる。 6) 頻度の表現を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えができる。 8) 指定された不定詞を用いて、自分の身の回りに起こった出来事について説明できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な会話文を聴き取ることができる。						
学習方法	演習、発表、eラーニング教材を使用する。						
テキスト及 び参考書等	Grammar Compass (センテージ)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎	○		40	
	e教材の達成率						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	イントロダクション						
第 2 週	Unit 1 名詞・冠詞						
第 3 週	eラーニング教材の説明と試用 ※eラーニング教材② (名詞・冠詞・代名詞)						
第 4 週	Unit 3 be 動詞・形容詞・前置詞						
第 5 週	Unit 4 疑問文						
第 6 週	※eラーニング教材 ① (be 動詞・一般動詞) ③ (形容詞・副詞) ④ (疑問文)						
第 7 週	Unit 6 現在進行形・未来の表現						
第 8 週	Unit 8 比較級・最上級						
第 9 週	※eラーニング教材 ⑤ (現在・過去・未来) ⑪ (比較)						
第 10 週	Unit 9 動名詞・不定詞						
第 11 週	Unit10 助動詞						
第 12 週	※eラーニング教材⑥ (進行形・助動詞) ⑧ (不定詞) ⑩ (動名詞・分詞) ⑫ (受身)						
第 13 週	Unit11 受動態						
第 14 週	補助教材による理解度チェック						
第 15 週	前期のまとめ						
第 16 週	定期試験						
備考	eラーニングの週には必ず大学 PC にログインするための ID およびパスワードを持ってくること。 毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 授業中、携帯電話の電源は OFF にすること。 授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示 : eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現 I 【子どもb】					開講 キャンパス	神園
担当者	大城綾子						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授業の 到達目標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) Pair Work によって会話コミュニケーション力をつける。 4) 基本動詞の正しい活用をマスターできる。 5) 基本動詞を使った平易な疑問文を作文できる。 6) 頻度の表現を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えができる。 8) 指定された不定詞を用いて、自分の身の回りに起こった出来事について説明できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な会話文を聞き取ることができる。						
学習方法	演習、発表、eラーニング教材を使用する。						
テキスト及 び参考書等	Grammar Compass (センテージ)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎	○		40	
	e教材の達成率						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	イントロダクション						
第2週	Unit 1 名詞・冠詞						
第3週	Unit 3 be動詞・形容詞・前置詞						
第4週	eラーニング教材の説明と試用 ※eラーニング教材① (be動詞・一般動詞) ② (名詞・冠詞・代名詞)						
第5週	Unit 4 疑問文						
第6週	Unit 6 現在進行形・未来の表現						
第7週	※eラーニング教材 ③ (形容詞・副詞) ④ (疑問文)						
第8週	Unit 8 比較級・最上級						
第9週	Unit 9 動名詞・不定詞						
第10週	※eラーニング教材 ⑤ (現在・過去・未来) ⑪ (比較) ⑧ (不定詞)						
第11週	Unit10 助動詞						
第12週	Unit11 受動態						
第13週	※eラーニング教材⑥ (進行形・助動詞⑩ (動名詞・分詞) ⑫ (受身)						
第14週	補助教材による理解度チェック						
第15週	前期のまとめ						
第16週	定期試験						
備考	eラーニングの週には必ず大学PCにログインするためのIDおよびパスワードを持ってくること。 毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 授業中、携帯電話の電源はOFFにすること。 授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示: eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現 I 【子どもc・心理】					開講 キャンパス	神園
担当者	渡邊 真理子						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授業の 到達目標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) Pair Work によって会話コミュニケーション力をつける。 4) 基本動詞の正しい活用をマスターできる。 5) 基本動詞を使った平易な疑問文を作文できる。 6) 頻度の表現を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えができる。 8) 指定された不定詞を用いて、自分の身の回りに起こった出来事について説明できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な会話文を聞き取ることができる。						
学習方法	演習、発表、eラーニング教材を使用する。						
テキスト及 び参考書等	Grammar Compass (センテージ)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎	○		40	
	e教材の達成率						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	ガイダンス及び Unit 1 名詞・冠詞						
第2週	eラーニング教材の説明と試用 ※eラーニング教材② (名詞・冠詞・代名詞)						
第3週	Unit 3 be動詞・形容詞・前置詞						
第4週	Unit 4 疑問文						
第5週	※eラーニング教材 ① (be動詞・一般動詞) ③ (形容詞・副詞) ④ (疑問文)						
第6週	Unit 6 現在進行形・未来の表現						
第7週	Unit 8 比較級・最上級						
第8週	※eラーニング教材 ⑤ (現在・過去・未来) ⑥ (進行形・助動詞) ⑪ (比較)						
第9週	Unit 9 動名詞・不定詞						
第10週	Unit 10 助動詞						
第11週	※eラーニング教材 ⑧ (不定詞) ⑩ (動名詞・分詞)						
第12週	Unit 11 受動態						
第13週	補助教材による学習到達度確認						
第14週	※eラーニング教材 ⑫ (受身)						
第15週	復習とまとめ						
第16週							
備考	第2週目授業時には必ず大学PCにログインするためのIDおよびパスワードを持ってくること。毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。授業中、携帯電話の電源はOFFにすること。授業外学習(事前学習・事後学習)の指示:eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現Ⅱ【健栄S・社福P】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	大 城 綾 子						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法事項を毎時間一つずつ「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を通して確認し、「使える」英語を身につける。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 語彙力を高める。 2) 会話を聞き取り内容を理解できる。 3) 英語を聞き取り英文を書きとることができる。 4) 単語を並べ替え意味の通る英文を作ることができる。 5) 英文法を理解し選択肢から適切な語を選ぶことができる。 6) ペア・ワークを通して英会話ができるようになる。 7) 基本的な英文を覚えてうえで自己表現できるようになる。 8) 少々長めの英文を読み内容を理解できるようになる。						
学習方法	講義、発表、ペアワーク、リスニング、ミニテスト						
テキスト及 び参考書等	English First Starter(金星堂)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	◎	○				10	
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎	○		10	
受講者の発表			◎	○		10	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	イントロダクション						
第 2 週	Unit 1 It's Nice to Meet You (be 動詞)						
第 3 週	Unit 2 Take a Hike (一般動詞)						
第 4 週	Unit 3 Don't Wear Your High Heels (代名詞)						
第 5 週	Unit 4 There's Nothing in My Backpack (場所を表す前置詞)						
第 6 週	Unit 5 What a Small World! (Yes・No で答える疑問文)						
第 7 週	Unit 6 Let's Eat (現在進行形・過去進行形)						
第 8 週	Unit 7 It's a Date (一般動詞の過去形)						
第 9 週	Unit 8 I Have to Study (助動詞)						
第 10 週	Unit 9 What Do You Think of My Sketch? (疑問詞)						
第 11 週	Unit 10 Kanji Is So Difficult (不定詞・動名詞)						
第 12 週	Unit 11 I'll Make a Birthday Cake (未来形)						
第 13 週	Unit 12 Saturday or Sunday? (接続詞)						
第 14 週	Unit 13 I'm Not Good with Computers (現在完了形)						
第 15 週	Unit 14 Which Is Better? (比較級・最上級)						
第 16 週	試験						
備 考	毎回授業の最初に前回の授業内容に関するミニテストを行うので復習を怠らないこと。						

科目名	英語表現Ⅱ(健栄T・社福O)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	小 池 知 英						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	これまでに学習した全般的な英語の知識を保持し、情報発信力の増強を図る。						
授 業 の 到達目標	1) 基礎的な語彙を運用できる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) 副教材の英語のリズムを理解することができる。 4) 副教材の英文をリズムカルに朗読できる。 5) 副教材の英文を暗誦することができる。 6) 簡単な文章を聞き取ることができる。 7) 簡単な文章をシャドウイングできる。 8) 基本的な語順に則った作文ができる。 9) 基本的な時制を使って適切な表現ができる。 10) 自分が作った文章を相手に伝わるように読むことができる。						
学習方法	演習、対話形式のトレーニング						
テキスト及 び参考書等	Primer for English Writing (南雲堂)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○						
授業態度			◎			10	
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎	○		20	
	副教材の達成率						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	ガイダンス						
第2週	副教材の解説						
第3週	Unit 1 動詞						
第4週	Unit 2 進行形・未来形・助動詞						
第5週	Unit 3 名詞・冠詞・代名詞						
第6週	Unit 4 前置詞・接続詞(1)						
第7週	Unit 5 形容詞・副詞と比較						
第8週	Unit 6 命令文・感嘆文						
第9週	Unit 7 不定詞						
第10週	Unit 8 動名詞と分詞						
第11週	Unit 9 各種疑問文・itの特別用法						
第12週	Unit 10 受動態						
第13週	Unit 11 完了形						
第14週	Unit 12 接続詞(2)						
第15週	Unit 13 5つの基本文型						
第16週	定期試験						
備考	受講の際には学内PCでログインするためのIDおよびパスワードが確認できる状態にしておくこと。毎時間、テキストを持参すること。授業後の復習は必須。授業中、携帯電話やスマートフォンを学習目的以外の用途で使うことは禁止する。						

科目名	英語表現Ⅱ【健栄U】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	園 部 ニコル						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	主として「書く、話す」などの英語発信能力の養成を目指し、英語による自己表現のための基盤 主として「書く、話す」などの英語発信能力の養成を目指し、英語による自己表現のための基盤づくりをする。英語でシンプルな文を組み立てて発信するための「手がかり」としての基本的な英文法を復習、確認し、理解を強化する。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 基本的な英語の文法事項を理解し、活用できる。 2) 英語の語順を理解し、シンプルな文を組み立てることができる。 3) 日常生活に必要な語彙を身につけ発信できる。 4) 基本的な動詞を用いた例文を暗記し活用できる。 5) 前置詞の働きを理解し、場所と時の表現ができる。 6) 接続詞、関係代名詞の働きを理解し、複文、重文を含む英文を書くことができる。 7) 時制の概念を理解し、過去、現在、未来の多様な表現ができる。 8) ペア・ワークやグループワークで、英語による情報交換や会話の能力を身につける。						
学習方法	演習、ペア・ワーク、リスニング訓練、小テスト等						
テキスト及 び参考書等	English Quest Intro						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎					80
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎				10
受講者の発表							
授業への参加度			◎				10
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	Introductions, Student Profiles, Song						
第 2 週	Unit 1 I love music						
第 3 週	Unit 2 Cherry Blossoms are special						
第 4 週	Unit 3 Life in Japan						
第 5 週	Unit 4 Shopping for beautiful eyes						
第 6 週	Unit 5 I love sports						
第 7 週	Review (homework check) and Song						
第 8 週	Unit 6 A part-time job						
第 9 週	Unit 7 Love and peace						
第 10 週	Unit 8 Cosplay is cool						
第 11 週	Unit 9 Africa or Italy?						
第 12 週	Unit 10 No smoking, please						
第 13 週	Unit 11 Let's go to a movie						
第 14 週	Unit 12 Which class is better?						
第 15 週	復習とまとめ・学習到達度の確認 homework check						
第 16 週							
備 考	毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。授業中、携帯電話の電源はOFFにすること。宿題を必ず行うこと。						

科目名	英語表現Ⅱ【社福Q】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	雨 森 未 来						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	ロンドンを舞台に生きた会話表現を身につけることを目指す。 DVD教材を基に「聞く、話す」の練習をし、自然に使える英語を発信できるようにする。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 基礎的な語彙力を身につけることができる。 2) 修得した英語の表現を用いて、自ら情報発信できる。 3) 英語コミュニケーションの場で役立つ基本的な表現力を身につける。 4) 自身の身の回りに起こった出来事について英語で簡単に説明できる。 5) 会話を聞き取ることができる。 6) ペア・ワークを通してコミュニケーション力を身につける。 7) 海外旅行に関する基本的な知識を身につける。						
学習方法	講義、リスニング訓練、DVD教材						
テキスト及 び参考書等	London Alive - Survival English - (朝日出版社)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎		◎			70	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎			10	
受講者の発表			◎			10	
授業への参加度			○			10	
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	イントロダクションおよび Unit 1 Arriving at the Hotel						
第 2 週	Unit 2 A Taxi Ride						
第 3 週	Unit 3 Shakespeare's Globe Theatre						
第 4 週	Unit 4 A Cruise on the River Thames						
第 5 週	Unit 5 Hungerford Bridge						
第 6 週	Unit 6 The Imperial War Museum						
第 7 週	Unit 7 The London Tube						
第 8 週	中間テスト(Unit 1～7までのまとめ)						
第 9 週	Unit 8 At the Shops						
第 10 週	Unit 9&11 At the Sally's Flat & At a London Pub						
第 11 週	Unit 12 Finding the Way						
第 12 週	Unit 13 Trafalgar Square						
第 13 週	Unit 14 Cycle Hire						
第 14 週	Unit 15 Time to Leave						
第 15 週	Unit 8～15のまとめ						
第 16 週	定期試験						
備 考	毎時間、テキスト、英和辞典(電子辞書)を持参すること。 課題を必ず行うこと。						

科目名	英語表現Ⅱ【リハA】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	渡 邊 真理子						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	PCを用いたEラーニングによる英作文自動添削システム CASEC - GTS を用いて、英文ライティングの基礎を学ぶ。						
授業の 到達目標	以下の文法事項を含む英文を書くことができる英文ライティング能力を習得する。 名詞 代名詞 不定詞 動名詞 疑問文 否定文 時制 形容詞 副詞 命令文その他						
学習方法	演習、PCによるセルフスタディ、発表、課題						
テキスト及 び参考書等	Eラーニング教材 CASEC - GTS (教育測定研究所)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○		○			50
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			○	◎			10
授業への参加度			◎				10
その他			◎	○			30
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	CASEC - GTS の操作方法・「名詞」の英作文						
第2週	名詞の英作文						
第3週	動名詞の英作文						
第4週	不定詞の英作文						
第5週	いろいろな動詞の英作文						
第6週	時制の英作文						
第7週	第1週から第6週までのまとめと小テストおよび過去時制・未来時制の英作文						
第8週	助動詞の英作文						
第9週	形容詞の英作文						
第10週	副詞の英作文						
第11週	第一文型の英作文						
第12週	疑問代名詞の英作文						
第13週	疑問副詞の英作文						
第14週	命令文の英作文						
第15週	第7週から第14週までのまとめと小テスト						
第16週							
備考	第1週目の授業において、Eラーニング教材についての説明と教材アクセス用のIDとパスワードの配布を行うので全員必ず出席すること。なお、PC教室において授業を行うため、大学コンピュータへのログオン用IDおよびパスワードが必要である。上記の詳細は事前に掲示するので必ず確認。 授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示：eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現Ⅱ【リハB】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	浅 岡 高 子						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	基礎的文法能力と日常生活に必要な語彙力を高めつつ、英語によるコミュニケーション能力を育成する。						
授 業 の 到達目標	<p>1) 基礎的文法事項を復習しつつ、それらがコミュニケーションの場面で実際に聞いたり話したり、読んだり、書いたりしながら使える。</p> <p>2) 種々の場面や文脈で必要とされる語彙が適切に使える。</p>						
学習方法	演習、ロールプレー、ゲーム等の活動等						
テキスト及び参考書等	Interchange (Cambridge University Press) Intro level. Reading Sense.						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	○		○		30	
小テスト等	◎	○		○		30	
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎			10	
受講者の発表			◎			20	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	コースオリエンテーション、Unit 9 食べ物						
第 2 週	Unit 9 食べ物						
第 3 週	Unit 10 スポーツ						
第 4 週	Unit 11 誕生日・記念日						
第 5 週	ビデオ						
第 6 週	Unit 12 身体部位						
第 7 週	Unit 12 健康						
第 8 週	復習、テスト①						
第 9 週	Unit 13 お店・道案内						
第 10 週	Unit 14 週末						
第 11 週	Unit 14 レジャー活動						
第 12 週	Unit 15 生まれた所						
第 13 週	会話テスト						
第 14 週	Unit 16 電話						
第 15 週	復習、テスト②						
第 16 週							
備考							

科目名	英語表現Ⅱ【リハC】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	矢ヶ部 あかり						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	これまでに学習した英文法の基礎を確認することで表現に必要な英語の基礎力の徹底を図る。 平易な英文を用いて英作文を繰り返すことを通してライティングの基礎を学ぶ。						
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口語的で平易な英語を聴き取ることができる。 ・口語的で平易な英文を読むことができる。 ・簡単な英語を用いて自分の気持ちを伝えることができる。 ・基本的な英文を組み立てて簡単な英作文ができる。 ・英語圏の文化に触れ、異文化への興味関心を高める。 						
学習方法	演習、リスニング訓練、英作文、小テストなど						
テキスト及 び参考書等	基礎からはじめるコミュニケーション英作文（松柏社）						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎		◎			80
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			◎	◎			10
授業への参加度			◎				10
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	Introduction Unit 1 What do you think about studying English in Britain?						
第2週	Unit 2 What about our air tickets?						
第3週	Unit 3 You may laugh at me, but ….						
第4週	Unit 4 Finally we've entered Britain!						
第5週	Unit 5 The exhibits were just too wonderful for words!						
第6週	Unit 6 Are they all British?						
第7週	Unit 7 I'm staying at kind of a boarding house.						
第8週	Unit 8 I went to Oxford Street to do some shopping.						
第9週	Unit 9 Do many Korean people speak English?						
第10週	Unit 10 I drank half a pint of Guinness.						
第11週	Unit 11 What's your favorite food in England?						
第12週	Unit 12 What are you going to do in Edinburgh?						
第13週	Unit 13 I'll prepare Thai food for everyone.						
第14週	Unit 14 Why do you raise vegetables at home?						
第15週	Unit 15 I'd like to come back to Britain one day.						
第16週	まとめと小テスト						
備考	辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。						

科目名	英語表現Ⅱ【子どもa】					開講 キャンパス	神園
担当者	矢ヶ部 あかり						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	これまでに学習した英文法の基礎を確認することで表現に必要な英語の基礎力の徹底を図る。 平易な英文を用いて英作文を繰り返すことを通してライティングの基礎を学ぶ。						
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口語的で平易な英語を聴き取ることができる。 ・口語的で平易な英文を読むことができる。 ・簡単な英語を用いて自分の気持ちを伝えることができる。 ・基本的な英文を組み立てて簡単な英作文ができる。 ・英語圏の文化に触れ、異文化への興味関心を高める。 						
学習方法	演習、リスニング訓練、英作文、小テストなど						
テキスト及 び参考書等	基礎からはじめるコミュニケーション英作文（松柏社）						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎		◎			80
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			◎	◎			10
授業への参加度			◎				10
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	Introduction Unit 1 What do you think about studying English in Britain?						
第2週	Unit 2 What about our air tickets?						
第3週	Unit 3 You may laugh at me, but ….						
第4週	Unit 4 Finally we've entered Britain!						
第5週	Unit 5 The exhibits were just too wonderful for words!						
第6週	Unit 6 Are they all British?						
第7週	Unit 7 I'm staying at kind of a boarding house.						
第8週	Unit 8 I went to Oxford Street to do some shopping.						
第9週	Unit 9 Do many Korean people speak English?						
第10週	Unit 10 I drank half a pint of Guinness.						
第11週	Unit 11 What's your favorite food in England?						
第12週	Unit 12 What are you going to do in Edinburgh?						
第13週	Unit 13 I'll prepare Thai food for everyone.						
第14週	Unit 14 Why do you raise vegetables at home?						
第15週	Unit 15 I'd like to come back to Britain one day.						
第16週	まとめと小テスト						
備考	辞書を必ず持参すること（電子辞書可）。						

科目名	英語表現Ⅱ【子どもb】					開講 キャンパス	神園
担当者	渡邊真理子						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	PCを用いたEラーニングによる英作文自動添削システム CASEC-GTS を用いて、英文ライティングの基礎を学ぶ。						
授業の 到達目標	以下の文法事項を含む英文を書くことができる英文ライティング能力を習得する。 名詞 代名詞 不定詞 動名詞 疑問文 否定文 時制 形容詞 副詞 命令文その他						
学習方法	演習、PCによるセルフスタディ、発表、課題						
テキスト及 び参考書等	Eラーニング教材 CASEC-GTS (教育測定研究所)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○		○			50
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			○	◎			10
授業への参加度			◎				10
その他			◎	○			30
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	CASEC-GTS の操作方法・「名詞」の英作文						
第2週	名詞の英作文						
第3週	動名詞の英作文						
第4週	不定詞の英作文						
第5週	いろいろな動詞の英作文						
第6週	時制の英作文						
第7週	第1週から第6週までのまとめと小テストおよび過去時制・未来時制の英作文						
第8週	助動詞の英作文						
第9週	形容詞の英作文						
第10週	副詞の英作文						
第11週	第一文型の英作文						
第12週	疑問代名詞の英作文						
第13週	疑問副詞の英作文						
第14週	命令文の英作文						
第15週	第7週から第14週までのまとめと小テスト						
第16週							
備考	第1週目の授業において、Eラーニング教材についての説明と教材アクセス用のIDとパスワードの配布を行うので全員必ず出席すること。なお、PC教室において授業を行うため、大学コンピュータへのログオン用IDおよびパスワードが必要である。上記の詳細は事前に掲示するので必ず確認。 授業外学習(事前学習・事後学習)の指示：eラーニング教材を解くことで授業の復習を行う。						

科目名	英語表現Ⅱ【子どもc】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	大 城 綾 子						
開講年次	2	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法事項を毎時間一つずつ「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4技能を通して確認し、「使える」英語を身につける。						
授 業 の 到達目標	1) 語彙力を高める。 2) 会話を聞き取り内容を理解できる。 3) 英語を聞き取り英文を書きとることができる。 4) 単語を並べ替え意味の通る英文を作ることができる。 5) 英文法を理解し選択肢から適切な語を選ぶことができる。 6) ペア・ワークを通して英会話ができるようになる。 7) 基本的な英文を覚えてうえで自己表現できるようになる。 8) 少々長めの英文を読み内容を理解できるようになる。						
学習方法	講義、発表、ペアワーク、リスニング、ミニテスト						
テキスト及 び参考書等	English First Starter(金星堂)						
評価基準・方法	到達目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	◎	○				10	
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎	○		10	
受講者の発表			◎	○		10	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	イントロダクション						
第 2 週	Unit 1 It's Nice to Meet You (be 動詞)						
第 3 週	Unit 2 Take a Hike (一般動詞)						
第 4 週	Unit 3 Don't Wear Your High Heels (代名詞)						
第 5 週	Unit 4 There's Nothing in My Backpack (場所を表す前置詞)						
第 6 週	Unit 5 What a Small World! (Yes・No で答える疑問文)						
第 7 週	Unit 6 Let's Eat (現在進行形・過去進行形)						
第 8 週	Unit 7 It's a Date (一般動詞の過去形)						
第 9 週	Unit 8 I Have to Study (助動詞)						
第 10 週	Unit 9 What Do You Think of My Sketch? (疑問詞)						
第 11 週	Unit 10 Kanji Is So Difficult (不定詞・動名詞)						
第 12 週	Unit 11 I'll Make a Birthday Cake (未来形)						
第 13 週	Unit 12 Saturday or Sunday? (接続詞)						
第 14 週	Unit 13 I'm Not Good with Computers (現在完了形)						
第 15 週	Unit 14 Which Is Better? (比較級・最上級)						
第 16 週	試験						
備 考	毎回授業の最初に前回の授業内容に関するミニテストを行うので復習を怠らないこと。						

科目名	英語表現 I (再)【健栄・社福】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	小 池 知 英						
開講年次	2～4	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 基礎的な語彙力を習得し、運用できる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) 副教材の暗誦、朗読を通して英語のリズムや発音を身につける。 4) 基本動詞の正しい運用ができる。 5) 基本文型に則った平易な文を理解できる。 6) 基本的な関係詞によって接続された文を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えが理解できる。 8) 基本的な不定詞を用いた文章が理解できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な文章を聴き取ることができる。						
学習方法	演習、対話形式でのトレーニング						
テキスト及 び参考書等	In Plain English (南雲堂)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○					10	
授業態度			◎			10	
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎		○	20	
	副教材の達成率						
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス及び副教材の解説						
第 2 週	Lesson 1 不定詞の用法						
第 3 週	Lesson 2 ~ing の用法						
第 4 週	Lesson 3 過去分詞の用法						
第 5 週	Lesson 4 疑問を表す形						
第 6 週	Lesson 5 S V X						
第 7 週	Lesson 6 S V O C						
第 8 週	Lesson 7 S V O X						
第 9 週	Lesson 8 it の用法						
第 10 週	Lesson 9 基本的な関係詞						
第 11 週	Lesson 10 後置修飾のまとめ						
第 12 週	Lesson 11 基本的な接続詞						
第 13 週	Lesson 12 節の識別						
第 14 週	Lesson 13 基本的な助動詞						
第 15 週	Unit 14 受動態の応用						
第 16 週	定期試験						
備 考	受講の際には学内 PC でログインするための ID およびパスワードが確認できる状態にしておくこと。 毎時間、テキストを持参すること。授業後の復習は必須。 授業中、携帯電話やスマートフォンを学習目的以外の用途で使うことは禁止する。						

科目名	英語表現 I (再)【リハビリ・子ども】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	小 池 知 英						
開講年次	2～4	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を確認しながら、基本的かつ絶対必要な文法事項の徹底的な習得を図る。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 基礎的な語彙力を習得し、運用できる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) 副教材の暗誦、朗読を通して英語のリズムや発音を身につける。 4) 基本動詞の正しい運用ができる。 5) 基本文型に則った平易な文を理解できる。 6) 基本的な関係詞によって接続された文を正確に理解できる。 7) 能動態から受動態への書き換えが理解できる。 8) 基本的な不定詞を用いた文章が理解できる。 9) 助動詞の種類とそれぞれの意味を的確に理解できる。 10) 簡単な文章を聴き取ることができる。						
学習方法	演習、対話形式でのトレーニング						
テキスト及 び参考書等	In Plain English (南雲堂)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○					10	
授業態度			◎			10	
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎		○	20	
	副教材の達成率						
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス及び副教材の解説						
第 2 週	Lesson 1 不定詞の用法						
第 3 週	Lesson 2 ~ing の用法						
第 4 週	Lesson 3 過去分詞の用法						
第 5 週	Lesson 4 疑問を表す形						
第 6 週	Lesson 5 S V X						
第 7 週	Lesson 6 S V O C						
第 8 週	Lesson 7 S V O X						
第 9 週	Lesson 8 it の用法						
第 10 週	Lesson 9 基本的な関係詞						
第 11 週	Lesson 10 後置修飾のまとめ						
第 12 週	Lesson 11 基本的な接続詞						
第 13 週	Lesson 12 節の識別						
第 14 週	Lesson 13 基本的な助動詞						
第 15 週	Unit 14 受動態の応用						
第 16 週	定期試験						
備 考	受講の際には学内 PC でログインするための ID およびパスワードが確認できる状態にしておくこと。 毎時間、テキストを持参すること。授業後の復習は必須。 授業中、携帯電話やスマートフォンを学習目的以外の用途で使うことは禁止する。						

科目名	英語表現Ⅱ(再)【健栄・社福】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	矢ヶ部 あかり						
開講年次	3～4	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した基本的な文法事項を再度徹底的に見直し、英語圏での日常生活に必要な英語表現能力を養う。						
授 業 の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口語的で平易な英語を聴き取ることができる。 ・口語的で平易な英文を読むことができる。 ・簡単な英語を用いて自分の気持ちを伝えることができる。 ・英語圏の文化に触れ、異文化への興味関心を高める。 						
学習方法	演習、リスニング訓練、英作文訓練、小テストなど						
テキスト及 び参考書等	Useful English for Communication 自己表現能力をつけるためのコミュニケーション英作文(松柏社)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎		◎		80	
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			◎	◎		10	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	Introduction Unit 1 Shall we go to America together ot learn English?						
第2週	Unit 2 I'm a little excited about the orientation!						
第3週	Unit 3 Is a bank card the same as a credit card?						
第4週	Unit 4 I'm planning to rent a suitcase from the rental shop.						
第5週	Unit 5 The captain of this plane is saying something!						
第6週	Unit 6 This form is an "Immigration form."						
第7週	Unit 7 How do you like the salad bars they have?						
第8週	Unit 8 How was your first class, Sakura?						
第9週	Unit 9 Mr. Carpenter said "grace" before eating.						
第10週	Unit 10 English is a very important foreign language in Korea.						
第11週	Unit 11 I had tacos for the first time in my life!						
第12週	Unit 12 It took me more than a week to prepare my presentation.						
第13週	Unit 13 They may sell these potatoes by the pound.						
第14週	Unit 14 I've long wanted to visit Disneyland in America						
第15週	Unit 15 I've made up my mind to study English harder.						
第16週	まとめと小テスト						
備 考	辞書を持参すること(電子辞書可)。						

科目名	英語表現Ⅱ(再)【リハビリ・子ども】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	矢ヶ部 あかり						
開講年次	3～4	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した基本的な文法事項を再度徹底的に見直し、英語圏での日常生活に必要な英語表現能力を養う。						
授 業 の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口語的で平易な英語を聴き取ることができる。 ・口語的で平易な英文を読むことができる。 ・簡単な英語を用いて自分の気持ちを伝えることができる。 ・英語圏の文化に触れ、異文化への興味関心を高める。 						
学習方法	演習、リスニング訓練、英作文訓練、小テストなど						
テキスト及 び参考書等	Useful English for Communication 自己表現能力をつけるためのコミュニケーション英作文(松柏社)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎		◎		80	
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			◎	◎		10	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	Introduction Unit 1 Shall we go to America together ot learn English?						
第2週	Unit 2 I'm a little excited about the orientation!						
第3週	Unit 3 Is a bank card the same as a credit card?						
第4週	Unit 4 I'm planning to rent a suitcase from the rental shop.						
第5週	Unit 5 The captain of this plane is saying something!						
第6週	Unit 6 This form is an "Immigration form."						
第7週	Unit 7 How do you like the salad bars they have?						
第8週	Unit 8 How was your first class, Sakura?						
第9週	Unit 9 Mr. Carpenter said "grace" before eating.						
第10週	Unit 10 English is a very important foreign language in Korea.						
第11週	Unit 11 I had tacos for the first time in my life!						
第12週	Unit 12 It took me more than a week to prepare my presentation.						
第13週	Unit 13 They may sell these potatoes by the pound.						
第14週	Unit 14 I've long wanted to visit Disneyland in America						
第15週	Unit 15 I've made up my mind to study English harder.						
第16週	まとめと小テスト						
備 考	辞書を持参すること(電子辞書可)。						

科目名	総合英語 I【健栄S・社福スポ合同P】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	雨 森 未 来						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した基本的な英文法の復習を行いながら、「聞く、話す」「読む、書く」の訓練を通して英語の能力を養成する。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 基本的な語彙力を身につけることができる。 2) まとまりのある英文を聞きとれるようになる。 3) 空欄に正しい英単語を入れ、文章を完成させることができる。 4) 英文を読み、必要な情報を取り出すことができる。 5) 英単語を並び替え、正しい文章を作ることができる。 6) ペア・ワークを通してコミュニケーション能力を高める。 7) 日本語と英語の構造上の違いを認識できるようになる。 8) イギリスの文化や習慣について、理解を深める。						
学習方法	講義、リスニング訓練						
テキスト及 び参考書等	Bridge to College English (南雲堂)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				70	
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎			10	
受講者の発表			○			10	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンスおよびイントロダクション						
第 2 週	Lesson 1 冠詞						
第 3 週	Lesson 2 名詞・代名詞						
第 4 週	Lesson 4・5 形容詞・副詞						
第 5 週	Lesson 6 比較						
第 6 週	Lesson 10 現在時制						
第 7 週	Lesson 11 過去時制						
第 8 週	Lesson 12・13 未来時制・進行形						
第 9 週	Lesson 14 完了時制						
第 10 週	中間テスト						
第 11 週	Lesson 15 助動詞						
第 12 週	Lesson 16 受動態						
第 13 週	Lesson 17・18 To不定詞・動名詞						
第 14 週	Lesson 20 some と any						
第 15 週	Lesson 21・22 接続詞・前置詞						
第 16 週	定期試験						
備 考	毎時間テキスト、英和辞典（電子辞書可）を持参すること。 課題を必ず行うこと。						

科目名	総合英語 I 【健栄T】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	渡 邊 真理子						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	英語の「読む」「聴く」「話す」「書く」の四つの技能を総合的に養成する。						
授 業 の 到達目標	①身近な生活に関することを英語で表現できる。 ②英語圏での日常生活に必要な知識を身につける。 ③日常的な場面における平易な対話を理解することができる。 ④初歩的なりスニング力を身につける。 ⑤教室内のペアワークによって実践的な表現力を習得する。 ⑥海外旅行や留学において遭遇するであろうさまざまな場面に対処できるコミュニケーションスキルを習得する。 ⑦自分のことを英語で表現できる。 ⑧アメリカ文化を理解できる。						
学習方法	演習、発表						
テキスト及 び参考書等	Viva! San Francisco (マクミランランゲージハウス)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験						60	
小テスト等	◎	○					
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			○	◎		20	
授業への参加度			◎			20	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	1. Where do I get the bus?						
第 2 週	2. Do you have a reservation, Ma'sm?						
第 3 週	3. Could you repeat that?						
第 4 週	4. I'll take the Wrangler Convertible.						
第 5 週	5. Would you like soup or salad?						
第 6 週	第1週から第5週までのまとめと小テスト						
第 7 週	6. Where's the fitting room?						
第 8 週	7. Would you mind taking my picture?						
第 9 週	8. Good to see you!						
第 10 週	9. I enjoyed my stay.						
第 11 週	10. Aisle seat, please.						
第 12 週	【サンフランシスコ旅行編】のまとめと第7週から第11週までの小テスト						
第 13 週	11. You are one of the family now.						
第 14 週	12. I want to help!						
第 15 週	【サンフランシスコ留学編】のまとめと小テスト						
第 16 週							
備 考	授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示: 復習として授業中に重要事項として下線を引いた部分をノートにまとめておくことを推奨する。						

科目名	総合英語 I【健栄U・社福スポ合同Q】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	園 部 ニコル						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	英語の「読む、書く、聴く、話す」の4技能を総合的に養成する。 英語の基本構造と基本的な文法事項を確認し、英語による情報発信能力を養成する。 英語圏の生活や文化に触れさせて異文化への理解を深める。						
授業の 到達目標	1) 英語の基本構造と基本事項を確認し、簡単な英語を用いて情報発信することができる。 2) 口語的で平易な英語を聴きとることができる。 3) 口語的で平易な英文を読むことができる。 4) 口語的で平易な英文を書くことができる。 5) 日常生活に必要な語彙、イディオムを身につけ、活用できる。 6) ペア・ワークによる口頭反復練習をとおして、英語の基本的な文型を身につけ活用できる。 7) 手紙や履歴書、スケジュール等の簡単な書類を英語で書くことができる。 8) 英語圏の文化に触れ、異文化への関心と理解を深める。						
学習方法	演習、ペア・ワーク、リスニング訓練、小テスト等						
テキスト及 び参考書等	Read it, Write it (金星堂)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎					80
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎				10
受講者の発表							
授業への参加度			◎				10
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	Introduction Student Profiles Song Information						
第 2 週	Unit 1 My Day						
第 3 週	Unit 2 My Friend						
第 4 週	Unit 3 A Letter to a Friend						
第 5 週	Unit 4 The Weather						
第 6 週	Unit 5 My Family						
第 7 週	Simple Test						
第 8 週	学習到達度の確認						
第 9 週	Unit 6 A Business Letter						
第 10 週	Unit 7 On Weekends						
第 11 週	Unit 8 A Trip						
第 12 週	Unit 9 A Trip						
第 13 週	Unit 10 Directions						
第 14 週	Unit 11 A Polite Letter						
第 15 週	復習とまとめ・学習到達度の確認						
第 16 週							
備考	毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 各ユニットのエクササイズ (G)、(H) は省く。 授業中、携帯電話の電源は OFF にすること。						

科目名	総合英語 I 【社福スポ合同O】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	大 城 綾 子						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	今なお人気のある映画『ノッティング・ヒルの恋人』を素材に、楽しみながら日常使われる英語に触れ覚え、それらの英語表現が使われる状況を理解する力を養う。						
授 業 の 到達目標	1) 実際のコミュニケーションで用いられる口語表現や省略表現を覚える。 2) 馴染みの薄いであろうイギリス英語に慣れ聞き取ることができるようになる。 3) まとまったセリフを口に出し発音できるようになる。 4) 重要な英語表現を覚え、自己を表現することができる。 5) 語彙力を高める。 6) 字幕なしで映画を見ることに興味を持つようになる。 7) ナチュラルスピードで話される英語を聞き取り内容を理解することができる。 8) 映画のセリフを直訳でなく意味に重点を置き日本語に翻訳することができる。						
学習方法	講義、発表、ミニテスト、DVD視聴						
テキスト及 び参考書等	English Grammar in Focus (マクミランランゲージハウス)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	◎	○				10	
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎			10	
受講者の発表			◎	○		10	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス						
第 2 週	Unit 1 NottingHill-Not a Bad Place to Be						
第 3 週	Unit 2 Surreal, But Nice						
第 4 週	Unit 3 I'll Be Your Date						
第 5 週	Unit 4 Miracles Do Happen						
第 6 週	Unit 5 Do You Want to Come Up?						
第 7 週	Unit 6 Nice Surprise or Nasty Surprise						
第 8 週	Unit 1~6のまとめと復習						
第 9 週	Unit 7 There Are Such Horrible Pictures						
第 10 週	Unit 8 Breakfast in Bed? Or Lunch or Brunch?						
第 11 週	Unit 9 Our Perspectives Are Different						
第 12 週	Unit 10 Wait! There Are Things to Say						
第 13 週	Unit 11 Don't Forget—I'm Also Just a Girl						
第 14 週	Unit 12 Where's the Press Conference?						
第 15 週	Unit 7~12のまとめと復習						
第 16 週							
備 考	毎回授業の最初に前回の授業内容に関するミニテストを行うので復習を怠らないこと。						

科目名	総合英語 I 【リハビリA】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	園 部 ニコル						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	英語の「読む、書く、聴く、話す」の4技能を総合的に養成する。 英語の基本構造と基本的な文法事項を確認し、英語による情報発信能力を養成する。 英語圏の生活や文化に触れさせて異文化への理解を深める。						
授業の 到達目標	1) 英語の基本構造と基本事項を確認し、簡単な英語を用いて情報発信することができる。 2) 口語的で平易な英語を聴きとることができる。 3) 口語的で平易な英文を読むことができる。 4) 口語的で平易な英文を書くことができる。 5) 日常生活に必要な語彙、イディオムを身につけ、活用できる。 6) ペア・ワークによる口頭反復練習をとおして、英語の基本的な文型を身につけ活用できる。 7) 手紙や履歴書、スケジュール等の簡単な書類を英語で書くことができる。 8) 英語圏の文化に触れ、異文化への関心と理解を深める。						
学習方法	演習、ペア・ワーク、リスニング訓練、小テスト等						
テキスト及 び参考書等	Read it, Write it (金星堂)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎					80
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎				10
受講者の発表							
授業への参加度			◎				10
その他							
合計							100
(表中の記号 ◎評価する観点 ○評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	Introduction Student Profiles Song Information						
第 2 週	Unit 1 My Day						
第 3 週	Unit 2 My Friend						
第 4 週	Unit 3 A Letter to a Friend						
第 5 週	Unit 4 The Weather						
第 6 週	Unit 5 My Family						
第 7 週	Simple Test						
第 8 週	学習到達度の確認						
第 9 週	Unit 6 A Business Letter						
第 10 週	Unit 7 On Weekends						
第 11 週	Unit 8 A Trip						
第 12 週	Unit 9 A Trip						
第 13 週	Unit 10 Directions						
第 14 週	Unit 11 A Polite Letter						
第 15 週	復習とまとめ・学習到達度の確認						
第 16 週							
備考	毎時間、テキストおよび英和辞書を持参すること。事前に十分、予習して授業に臨むこと。 各ユニットのエクササイズ (G)、(H) は省く。 授業中、携帯電話の電源は OFF にすること。						

科目名	総合英語 I 【リハB】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	浅 岡 高 子						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	基礎的文法と日常生活に必要な言彙力を定着させつつ、英語によるコミュニケーション能力を育成する。						
授 業 の 到 達 目 標	<p>1) 基礎的文法事項を復習しつつ、それらがコミュニケーションの場面で実際に聞いたり話したり、読んだり、書いたりしながら使えるようになる。</p> <p>2) 上記の場面や文脈で必要とされる語彙や表現が適切に使える。</p>						
学習方法	演習、ロールプレー、ゲーム等の活動等						
テキスト及び参考書等	Interchange (Cambridge University Press) Intro level. Reading Sense.						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	○		○		30	
小テスト等	◎	○		○		30	
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎			10	
受講者の発表			◎			20	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	コースオリエンテーション、Unit 1 自己紹介						
第 2 週	Unit 2 住所、電話番号など						
第 3 週	Unit 2 身の回りの品々と存在場所の告げ方						
第 4 週	Unit 3 出身地、国名など						
第 5 週	ビデオ						
第 6 週	Unit 4 天候、季節、色						
第 7 週	復習、テスト①						
第 8 週	Unit 5 日々の活動、週日／休日の活動						
第 9 週	Unit 6 場所／交通						
第 10 週	ビデオ						
第 11 週	Unit 7 住居						
第 12 週	Unit 7 住居						
第 13 週	会話テスト②						
第 14 週	Unit 8 職業、職場						
第 15 週	復習、テスト②						
第 16 週							
備 考							

科目名	総合英語 I 【リハC】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	矢ヶ部 あかり						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	平易な英語の会話文を聴き口に出して反復練習することを通してスピーキングのための基礎力を養う。 平易な英文を書く訓練を通して基礎的な英語の表現能力を養う。						
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口語的で平易な英語を聴き取ることができる。 ・簡単な英語を用いて自分の気持ちを伝えることができる。 ・基本的な英文を組み立てて簡単な英作文ができる。 ・英語圏の文化に触れ、異文化への興味関心を高める。 						
学習方法	演習、リスニング訓練、ペア・ワーク、小テストなど						
テキスト及 び参考書等	Have a Nice Trip! 海外旅行で英語を使おう！（松柏社）						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎			◎			80
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			◎	◎			10
授業への参加度			◎				10
その他							
合計							100
(表中の記号 ◎評価する観点 ○評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	Intoroduction Unit 1 Greetings & Introductions						
第 2 週	Unit 2 Up in the Air						
第 3 週	Unit 3 At the Airport ~ Part 1						
第 4 週	Unit 4 At the Airport ~ Part 2						
第 5 週	Unit 5 Hotel Life ~ Part 1						
第 6 週	Unit 6 Hotel Life ~ Part 2						
第 7 週	Unit 7 Money Matters						
第 8 週	Unit 8 Mail Service						
第 9 週	Unit 9 Eating at a Restaurant						
第 10 週	Unit 10 Fast Food, Anyone?						
第 11 週	Unit 11 Going for a Drive						
第 12 週	Unit 12 Time to Shop						
第 13 週	Unit 13 Looking Around						
第 14 週	Unit 14 Feeling Ill						
第 15 週	Unit 15 Need Help?						
第 16 週	まとめと小テスト						
備考	辞書を持参すること（電子辞書可）。						

科目名	総合英語 I 【子ども a】					開講 キャンパス	神園
担当者	渡邊 真理子						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	英語の「読む」「聴く」「話す」「書く」の四つの技能を総合的に養成する。						
授業の 到達目標	①身近な生活に関することを英語で表現できる。 ②英語圏での日常生活に必要な知識を身につける。 ③日常的な場面における平易な対話を理解することができる。 ④初歩的なリスニング力を身につける。 ⑤教室内のペアワークによって実践的な表現力を習得する。 ⑥海外旅行や留学において遭遇するであろうさまざまな場面に対処できるコミュニケーションスキルを習得する。 ⑦自分のことを英語で表現できる。 ⑧アメリカ文化を理解できる。						
学習方法	演習、発表						
テキスト及 び参考書等	Viva! San Francisco (マクミランランゲージハウス)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験						60	
小テスト等	◎	○					
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			○	◎		20	
授業への参加度			◎			20	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	1. Where do I get the bus?						
第 2 週	2. Do you have a reservation, Ma'am?						
第 3 週	3. Could you repeat that?						
第 4 週	4. I'll take the Wrangler Convertible.						
第 5 週	5. Would you like soup or salad?						
第 6 週	第 1 週から第 5 週までのまとめと小テスト						
第 7 週	6. Where's the fitting room?						
第 8 週	7. Would you mind taking my picture?						
第 9 週	8. Good to see you!						
第 10 週	9. I enjoyed my stay.						
第 11 週	10. Aisle seat, please.						
第 12 週	【サンフランシスコ旅行編】のまとめと第 7 週から第 11 週までの小テスト						
第 13 週	11. You are one of the family now.						
第 14 週	12. I want to help!						
第 15 週	【サンフランシスコ留学編】のまとめと小テスト						
第 16 週							
備考	授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示: 復習の方法としては授業中に重要事項として下線を引いた部分をノートにまとめておくことを推奨する。						

科目名	総合英語 I 【子どもb】					開講 キャンパス	神園
担当者	矢ヶ部 あかり						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	平易な英語の会話文を聴き口に出して反復練習することを通してスピーキングのための基礎力を養う。 平易な英文を書く訓練を通して基礎的な英語の表現能力を養う。						
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・口語的で平易な英語を聴き取ることができる。 ・簡単な英語を用いて自分の気持ちを伝えることができる。 ・基本的な英文を組み立てて簡単な英作文ができる。 ・英語圏の文化に触れ、異文化への興味関心を高める。 						
学習方法	演習、リスニング訓練、ペア・ワーク、小テストなど						
テキスト及 び参考書等	Have a Nice Trip! 海外旅行で英語を使おう！（松柏社）						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎				◎		80
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			◎	◎			10
授業への参加度			◎				10
その他							
合計							100
(表中の記号 ◎評価する観点 ○評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	Intoroduction Unit 1 Greetings & Introductions						
第2週	Unit 2 Up in the Air						
第3週	Unit 3 At the Airport ~ Part 1						
第4週	Unit 4 At the Airport ~ Part 2						
第5週	Unit 5 Hotel Life ~ Part 1						
第6週	Unit 6 Hotel Life ~ Part 2						
第7週	Unit 7 Money Matters						
第8週	Unit 8 Mail Service						
第9週	Unit 9 Eating at a Restaurant						
第10週	Unit 10 Fast Food, Anyone?						
第11週	Unit 11 Going for a Drive						
第12週	Unit 12 Time to Shop						
第13週	Unit 13 Looking Around						
第14週	Unit 14 Feeling Ill						
第15週	Unit 15 Need Help?						
第16週	まとめと小テスト						
備考	辞書を持参すること（電子辞書可）。						

科目名	総合英語 I 【子どもc】					開講 キャンパス	神園
担当者	幸山 智子						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を復習する。 また、リスニング・リーディング練習を通じて総合的な英語のコミュニケーション能力を養う。						
授業の 到達目標	① 基本的な文法・語彙を身につけることができる。 ② 空欄に適切な英単語を入れ、正しい文章を完成させることができる。 ③ 英単語を並び替えて、正しい文章を完成させることができる。 ④ リスニング訓練を通じて、短い英文（70語程度）を聞き取る力を獲得する。 ⑤ Pair Work などを通じて、短い英文（70語程度）を読解する力を獲得する。 ⑥ イギリス文化に親しみ、英語を楽しんで学習することができるようになる。 ⑦ イギリスと日本の文化の違いや共通点について考え、自分なりの意見を述べられるようになる。						
学習方法	講義、CDを使用したリスニング訓練						
テキスト及 び参考書等	Bridge to College English						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	○		○		60	
小テスト等							
宿題・授業外レポート		◎	○			10	
授業態度							
受講者の発表			◎			20	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	イントロダクション、Lesson 1 冠詞						
第2週	Lesson 2 名詞・代名詞						
第3週	Lesson 4,5 形容詞・副詞						
第4週	Lesson 6 比較						
第5週	Lesson 9 関係代名詞						
第6週	Lesson 10 現在時制						
第7週	Lesson 11 過去時制						
第8週	Lesson 12 未来時制						
第9週	Lesson 13 進行形						
第10週	Lesson 14 完了時制						
第11週	Lesson 15 助動詞						
第12週	Lesson 16 受動態						
第13週	Lesson 17 to 不定詞						
第14週	Lesson 18 動名詞						
第15週	Lesson 21,22 接続詞・前置詞						
第16週	定期試験						
備考	毎回、テキストと英和辞典を持ってくること。(電子辞書可) 課題がある場合、必ず行うこと。						

科目名	総合英語 I 【心理】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	大 城 綾 子						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	今なお人気のある映画『ノッティング・ヒルの恋人』を素材に、楽しみながら日常使われる英語に触れ覚え、それらの英語表現が使われる状況を理解する力を養う。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 実際のコミュニケーションで用いられる口語表現や省略表現を覚える。 2) 馴染みの薄いであろうイギリス英語に慣れ聞き取ることができるようになる。 3) まとまったセリフを口に出し発音できるようになる。 4) 重要な英語表現を覚え、自己を表現することができる。 5) 語彙力を高める。 6) 字幕なしで映画を見ることに関心を持つようになる。 7) ナチュラルスピードで話される英語を聞き取り内容を理解することができる。 8) 映画のセリフを直訳でなく意味に重点を置き日本語に翻訳することができる。						
学習方法	講義、発表、ミニテスト、DVD視聴						
テキスト及 び参考書等	English Grammar in Focus (マクミランランゲージハウス)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	◎	○				10	
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎			10	
受講者の発表			◎	○		10	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス						
第 2 週	Unit 1 NottingHill-Not a Bad Place to Be						
第 3 週	Unit 2 Surreal, But Nice						
第 4 週	Unit 3 I'll Be Your Date						
第 5 週	Unit 4 Miracles Do Happen						
第 6 週	Unit 5 Do You Want to Come Up?						
第 7 週	Unit 6 Nice Surprise or Nasty Surprise						
第 8 週	Unit 1~6のまとめと復習						
第 9 週	Unit 7 There Are Such Horrible Pictures						
第 10 週	Unit 8 Breakfast in Bed? Or Lunch or Brunch?						
第 11 週	Unit 9 Our Perspectives Are Different						
第 12 週	Unit 10 Wait! There Are Things to Say						
第 13 週	Unit 11 Don't Forget—I'm Also Just a Girl						
第 14 週	Unit 12 Where's the Press Conference?						
第 15 週	Unit 7~12のまとめと復習						
第 16 週							
備 考	毎回授業の最初に前回の授業内容に関するミニテストを行うので復習を怠らないこと。						

科目名	総合英語Ⅱ(健栄S・社福Q)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	小 池 知 英						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	これまで学習した英語力の総まとめ。4技能をまんべんなく意識した英語力の増強を図る。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 基礎的な語彙を運用できる。 2) 習得した文法事項を用いて、簡単な文章で自ら情報発信できる。 3) 副教材の暗誦、朗読を通して英語のリズムや発音を身につける。 4) いろいろな形態の主語を認識できる。 5) 基本文型に則った平易な文を理解できる。 6) 基本的な関係詞によって接続された文を正確に理解できる。 7) 接続詞によって結ばれた文の関係を理解できる。 8) 基本的な時制を認識、運用できる。 9) 簡単な文章を聴き取り、シャドウイングすることができる。 10) トレーニングした英文を自力でナチュラルスピードで読むことができる。						
学習方法	演習、対話形式でのトレーニング						
テキスト及 び参考書等	Shadowing Starter (マクミランランゲージハウス)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○					10	
授業態度			◎			10	
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎		○	20	
	副教材の達成率						
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス及び副教材の解説						
第 2 週	Unit 1 The Environment and Economics						
第 3 週	Unit 2 Shopping Carts Dirtier Than Public Restrooms						
第 4 週	Unit 3 A Story with A-peel						
第 5 週	Unit 4 The Price Tag of Happiness						
第 6 週	Unit 5 Another Benefit of Picking Up a New Tongue						
第 7 週	Unit 6 The White Revolution for Climate Crisis						
第 8 週	Unit 7 Staying Healthy at the Workplace						
第 9 週	Unit 8 Write Off Your Test Anxiety						
第 10 週	Unit 9 Heavy Texting-A New Social Problem						
第 11 週	Unit 10 Stadium Goes Green						
第 12 週	Unit 11 With Shoes or Not with Shoes, That Is the Question!						
第 13 週	Unit 12 ThinkB 4 UClick!						
第 14 週	Unit 13 Walmart and First Lady Team Up to Fight Childhood Obesity						
第 15 週	Unit 14 Hey, Get Out of My Way!-Sidewalk Rage Syndrome						
第 16 週	定期試験						
備 考	受講の際には学内 PC でログインするための ID およびパスワードが確認できる状態にしておくこと。 毎時間、テキストを持参すること。授業後の復習は必須。 授業中、携帯電話やスマートフォンを学習目的以外の用途で使うことは禁止する。						

科目名	総合英語Ⅱ(健栄T・社福P)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	幸 山 智 子						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	映画『イン・アメリカ』(2002年)のストーリーを楽しみながら、異文化理解を深め、英語コミュニケーション能力を向上させる。						
授 業 の 到 達 目 標	① 日本語字幕に頼らずに洋画のストーリーを把握することができるようになる。 ② ①の過程で、学習者同士が英語でやりとりをすることによって、コミュニケーション能力を養う。 ③ 会話を聞き取ることができるようになる。 ④ 登場人物の心の動きなど、繊細な部分まで理解して洋画を鑑賞することができるようになる。 ⑤ 文法や表現を学び、実際の英語コミュニケーションの場で役立つ語彙力を身につける。 ⑥ アメリカの歴史や現代のアメリカが抱える問題を認識する。 ⑦ 映画鑑賞を通じて、異文化理解を深める。						
学習方法	演習、発表(Pair Work)、ビデオ視聴						
テキスト及び参考書等	『イン・アメリカー三つの小さな願い事』(英宝社)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○		○			60
宿題・授業外レポート		○		○			10
授業態度							
受講者の発表				◎			20
授業への参加度				◎			10
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	イントロダクション、Unit One: Do You Believe in Magic?						
第2週	Unit Two: Humidity						
第3週	Unit Three: A Game of Chance						
第4週	Unit Four: Halloween						
第5週	Unit Five: Colcannon						
第6週	Unit six: I'm in Love with Anything that Lives						
第7週	Unit One から Unit Six までのまとめと小テスト						
第8週	Unit Seven: "Desperado"						
第9週	Unit Eight: Masselo Masela						
第10週	Unit Nine: Do You Believe in Aliens?						
第11週	Unit Ten: Pray for the New Baby						
第12週	Unit Eleven: Mateo and the New Born Baby						
第13週	Unit Twelve: Say Goodbye to Frankie, Dad						
第14週	Intermission で取り上げられているテーマのいずれかを掘り下げて議論、もしくは発表						
第15週	Unit Eight から Unit Twelve までのまとめと小テスト						
第16週							
備 考							

科目名	総合英語Ⅱ【健栄U・社福O】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	大 城 綾 子						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	大学を卒業し社会で働き始めたばかりの女性(学生とほぼ同世代)を主人公とした映画 The Devil Wears Prada を素材に、セリフを覚え英語で自己表現する力を養う。また字幕なしで映画を観ても英語を聞き取ることのできるリスニング力を養う。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 英語の口語表現に慣れる。 2) アメリカ英語とイギリス英語の違いに慣れ聞き取ることができるようになる。 3) 重要な英語表現を覚え、自己を表現することができる。 4) 語彙力を高める。 5) 字幕なしで映画を観ることに興味を持つようになる。 6) かなり早めに話される英語を聞き取り内容を理解することができる。 7) テキストに書かれた文章を正しく理解することができる。 8) 映画のセリフを直訳ではなく意味に重点を置き日本語に翻訳することができる。						
学習方法	講義、発表、ミニテスト、DVD 視聴						
テキスト及 び参考書等	The Devil Wears Prada 映画総合教材『ブラダを着た悪魔』（松柏社）						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	◎	○				10	
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎	○		10	
受講者の発表			◎	○		10	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	ガイダンス						
第 2 週	Unit 1(ミランダの面接 / Andy Meets Miranda)						
第 3 週	Unit 2(アンディ、ランウェイに初出陣 / Andy's First Day at Runway)						
第 4 週	Unit 3(すべてはミランダの手の中に / Miranda, the Almighty)						
第 5 週	Unit 4(アンディの劇的な変身 / Andy's Metamorphosis)						
第 6 週	Unit 5(アンディ 奇跡を起こす / Andy Performs a Miracle)						
第 7 週	Unit 1～5 の復習						
第 8 週	学力到達度調査						
第 9 週	Unit 6(アンディ 株上昇 / Andy's Stock Goes Up)						
第 10 週	Unit 7(アンディのジレンマ / Andy's Dilemma)						
第 11 週	Unit 8(パリでの初日 / A Night in Paris)						
第 12 週	Unit 9(陰謀 / A Plot against Miranda)						
第 13 週	Unit 10(最後の選択 / Andy's Final Choice)						
第 14 週	Unit 6～10の復習						
第 15 週	まとめ						
第 16 週	試験						
備 考	毎回授業の最初に前回の授業内容に関するミニテストを行うので復習を怠らないこと。						

科目名	総合英語Ⅱ【リハA】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	矢ヶ部 あかり						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した文法の基礎を確認しながら、生活レベルのコミュニケーションに必要な基礎的な表現能力を養う。						
授 業 の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校までに学んだ英文法の基礎を徹底的に確認する。 ・簡単な英語を用いて自分の気持ちを伝えることができる。 ・基本的な英文を組み立てて生活レベルのコミュニケーションに必要な英文を作ることができる。 ・英語圏の文化に触れ、異文化への興味関心を高める。 						
学習方法	演習、リスニング訓練、ペア・ワーク、小テストなど						
テキスト及 び参考書等	Let's Travel Abroad! 海外旅行に行こう！（松柏社）						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎				◎		80
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			◎	◎			10
授業への参加度			◎				10
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	Introduction Unit 1 Introduction Part 1						
第 2 週	Unit 1 Introduction Part 2						
第 3 週	Unit 2 On a Plane						
第 4 週	Unit 3 At the Airport						
第 5 週	Unit 4 At a Hotel Part 1						
第 6 週	Unit 4 At a Hotel Part 2						
第 7 週	Unit 5 At a Post Office						
第 8 週	Unit 6 At a Bank						
第 9 週	Unit 7 At a Restaurant Part 1						
第 10 週	Unit 7 At a Restaurant Part 2						
第 11 週	Unit 8 Shopping						
第 12 週	Unit 9 Health Problems						
第 13 週	Unit 10 Sightseeing						
第 14 週	Unit 11 Trouble						
第 15 週	まとめ						
第 16 週	小テストなど						
備 考	辞書を持参すること（電子辞書可）。						

科目名	総合英語Ⅱ【リハビリB】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	渡 邊 真理子						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	映画『イン・アメリカ』（In America、2002年）のストーリーを楽しみながら、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。						
授 業 の 到 達 目 標	①洋画を日本語字幕なしに鑑賞し、ストーリーを把握できる。 ②内容理解においてクラスメイトと英語によるコミュニケーションを図ることができる。 ③ストーリーの理解だけではなく登場人物の心の動きを理解できる。 ④会話の聞き取り能力を獲得する。 ⑤実際の英語コミュニケーションの場で役立つ基本的な表現を身につける。 ⑥アメリカの歴史や現代のアメリカが抱える問題を認識できる。 ⑦映画の場面から、アイルランドの歴史、移民問題、文化について理解できる。						
学習方法	演習、発表						
テキスト及 び参考書等	『イン・アメリカ——三つの小さな願いごと』（英宝社）						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○		○			60
宿題・授業外レポート		◎	○				10
授業態度							
受講者の発表			◎				20
授業への参加度			◎				10
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	ガイダンスおよび Do you believe in magic ?						
第 2 週	Humidity						
第 3 週	A game of chance						
第 4 週	Halloween						
第 5 週	Colcannon						
第 6 週	I'm in love with anything that lives						
第 7 週	第 1 週から第 6 週までのまとめと小テスト						
第 8 週	Desperado						
第 9 週	Masselo Masela						
第 10 週	Do you believe in Aliens?						
第 11 週	Pray for the new baby						
第 12 週	Mateo and the new born baby						
第 13 週	Say goodbye to Frankies, Dad						
第 14 週	『イン・アメリカ』と『E.T.』						
第 15 週	第 8 週から第 14 週までのまとめと小テスト						
第 16 週							
備 考	情報処理室において授業を行う予定である。ID とパスワードを忘れないように。 授業外学習（事前学習・事後学習）の指示：筆記試験対策として、授業中の解説をメモし、各自ノートにまとめておくことをすすめる。						

科目名	総合英語Ⅱ【リハC】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	浅 岡 高 子						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	基礎的文法と日常生活に必要な言彙力を定着させつつ、英語によるコミュニケーション能力を育成する。						
授 業 の 到 達 目 標	<p>1) 基礎的文法事項を復習しつつ、それらがコミュニケーションの場面で実際に聞いたり話したり、読んだり、書いたりしながら使えるようになる。</p> <p>2) 上記の場面や文脈で必要とされる語彙や表現が適切に使える。</p>						
学習方法	演習、ロールプレー、ゲーム等の活動等						
テキスト及 び参考書等	Interchange (Cambridge University Press) level 2. Reading Sense.						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	○		○		30	
小テスト等	◎	○		○		30	
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎			10	
受講者の発表			◎			20	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	コースオリエンテーション、Unit 1						
第 2 週	Unit 2						
第 3 週	Unit 2						
第 4 週	Unit 3						
第 5 週	Unit 3						
第 6 週	ビデオ						
第 7 週	Unit 4						
第 8 週	復習、テスト①						
第 9 週	Unit 5						
第 10 週	Unit 6						
第 11 週	ビデオ						
第 12 週	Unit 7						
第 13 週	会話テスト						
第 14 週	Unit 8						
第 15 週	復習、テスト②						
第 16 週							
備 考							

科目名	総合英語Ⅱ【子どもa】					開講 キャンパス	神園
担当者	大城綾子						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	大学を卒業し社会で働き始めたばかりの女性(学生とほぼ同世代)を主人公とした映画 The Devil Wears Prada を素材に、セリフを覚え英語で自己表現する力を養う。また字幕なしで映画を観ても英語を聞き取ることのできるリスニング力を養う。						
授業の 到達目標	1) 英語の口語表現に慣れる。 2) アメリカ英語とイギリス英語の違いに慣れ聞き取ることができるようになる。 3) 重要な英語表現を覚え、自己を表現することができる。 4) 語彙力を高める。 5) 字幕なしで映画を観ることに興味を持つようになる。 6) かなり早めに話される英語を聞き取り内容を理解することができる。 7) テキストに書かれた文章を正しく理解することができる。 8) 映画のセリフを直訳ではなく意味に重点を置き日本語に翻訳することができる。						
学習方法	講義、発表、ミニテスト、DVD 視聴						
テキスト及 び参考書等	The Devil Wears Prada 映画総合教材『ブラダを着た悪魔』(松柏社)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎			60		
小テスト等	◎	○			10		
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎	○	10		
受講者の発表			◎	○	10		
授業への参加度			◎		10		
その他							
合計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	ガイダンス						
第2週	Unit 1(ミランダの面接 / Andy Meets Miranda)						
第3週	Unit 2(アンディ、ランウェイに初出陣 / Andy's First Day at Runway)						
第4週	Unit 3(すべてはミランダの手の中に / Miranda, the Almighty)						
第5週	Unit 4(アンディの劇的な変身 / Andy's Metamorphosis)						
第6週	Unit 5(アンディ 奇跡を起こす / Andy Performs a Miracle)						
第7週	Unit 1~5の復習						
第8週	学力到達度調査						
第9週	Unit 6(アンディ 株上昇 / Andy's Stock Goes Up)						
第10週	Unit 7(アンディのジレンマ / Andy's Dilemma)						
第11週	Unit 8(パリでの初日 / A Night in Paris)						
第12週	Unit 9(陰謀 / A Plot against Miranda)						
第13週	Unit 10(最後の選択 / Andy's Final Choice)						
第14週	Unit 6~10の復習						
第15週	まとめ						
第16週	試験						
備考	毎回授業の最初に前回の授業内容に関するミニテストを行うので復習を怠らないこと。						

科目名	総合英語Ⅱ【子どもb】					開講 キャンパス	神園
担当者	幸山 智子						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	映画『イン・アメリカ』（2002年）のストーリーを楽しみながら、異文化理解を深め、英語コミュニケーション能力を向上させる。						
授業の 到達目標	① 日本語字幕に頼らずに洋画のストーリーを把握することができるようになる。 ② ①の過程で、学習者同士が英語でやりとりをすることによって、コミュニケーション能力を養う。 ③ 会話を聞き取ることができるようになる。 ④ 登場人物の心の動きなど、繊細な部分まで理解して洋画を鑑賞することができるようになる。 ⑤ 文法や表現を学び、実際の英語コミュニケーションの場で役立つ語彙力を身につける。 ⑥ アメリカの歴史や現代のアメリカが抱える問題を認識する。 ⑦ 映画鑑賞を通じて、異文化理解を深める。						
学習方法	演習、発表(Pair Work)、ビデオ視聴						
テキスト及び 参考書等	『イン・アメリカー三つの小さな願い事』（英宝社）						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○		○			60
宿題・授業外レポート		○		○			10
授業態度							
受講者の発表				◎			20
授業への参加度				◎			10
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	イントロダクション、Unit One: Do You Believe in Magic?						
第2週	Unit Two: Humidity						
第3週	Unit Three: A Game of Chance						
第4週	Unit Four: Halloween						
第5週	Unit Five: Colcannon						
第6週	Unit six: I'm in Love with Anything that Lives						
第7週	Unit One から Unit Six までのまとめと小テスト						
第8週	Unit Seven: "Desperado"						
第9週	Unit Eight: Masselo Masela						
第10週	Unit Nine: Do You Believe in Aliens?						
第11週	Unit Ten: Pray for the New Baby						
第12週	Unit Eleven: Mateo and the New Born Baby						
第13週	Unit Twelve: Say Goodbye to Frankie, Dad						
第14週	Intermission で取り上げられているテーマのいずれかを掘り下げて議論、もしくは発表						
第15週	Unit Eight から Unit Twelve までのまとめと小テスト						
第16週							
備考							

科目名	総合英語Ⅱ【子どもc】					開講 キャンパス	神園
担当者	矢ヶ部 あかり						
開講年次	2	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した文法の基礎を確認しながら、生活レベルのコミュニケーションに必要な基礎的な表現能力を養う。						
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・高校までに学んだ英文法の基礎を徹底的に確認する。 ・簡単な英語を用いて自分の気持ちを伝えることができる。 ・基本的な英文を組み立てて生活レベルのコミュニケーションに必要な英文を作ることができる。 ・英語圏の文化に触れ、異文化への興味関心を高める。 						
学習方法	演習、リスニング訓練、ペア・ワーク、小テストなど						
テキスト及 び参考書等	Let's Travel Abroad! 海外旅行に行こう！（松柏社）						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎			◎		80	
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			◎	◎		10	
授業への参加度			◎			10	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ◎評価する観点 ○評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	Introduction Unit 1 Introduction Part 1						
第2週	Unit 1 Introduction Part 2						
第3週	Unit 2 On a Plane						
第4週	Unit 3 At the Airport						
第5週	Unit 4 At a Hotel Part 1						
第6週	Unit 4 At a Hotel Part 2						
第7週	Unit 5 At a Post Office						
第8週	Unit 6 At a Bank						
第9週	Unit 7 At a Restaurant Part 1						
第10週	Unit 7 At a Restaurant Part 2						
第11週	Unit 8 Shopping						
第12週	Unit 9 Health Problems						
第13週	Unit 10 Sightseeing						
第14週	Unit 11 Trouble						
第15週	まとめ						
第16週	小テストなど						
備考	辞書を持参すること（電子辞書可）。						

科目名	総合英語 I (再)【リハビリ・子ども】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	小 池 知 英						
開講年次	2～4	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を意識しながら、四技能も意識した英語力の強化を図る。						
授 業 の 到 達 目 標	1) 基礎的な語彙を運用できる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) 副教材の英語のリズムを理解することができる。 4) 副教材の英文をリズムカルに朗読できる。 5) 副教材の英文を暗誦することができる。 6) 簡単な文章を聞き取ることができる。 7) 簡単な文章をシャドウイングできる。 8) 簡単な文章であれば英問英答ができる。 9) 基本的な語順に則った作文ができる。 10) 基本的な時制を使って適切な表現ができる。						
学習方法	演習、対話形式でのトレーニング						
テキスト及 び参考書等	English First Starter (金星堂)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○					10	
授業態度			◎			10	
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎	○		20	
	副教材の達成率						
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス及び副教材の解説						
第 2 週	Unit 1 It's Nice to Meet You						
第 3 週	Unit 2 Take a Hike						
第 4 週	Unit 3 Don't Wear Your High Heels						
第 5 週	Unit 4 There's Nothing in My Backpack						
第 6 週	Unit 5 What a Small World						
第 7 週	Unit 6 Let's Eat						
第 8 週	Unit 7 It's a Date						
第 9 週	Unit 8 I Have to Study						
第 10 週	Unit 9 What Do You Think of My Sketch?						
第 11 週	Unit 10 Kanji Is So Difficult						
第 12 週	Unit 11 I'll Make a Birthday Cake						
第 13 週	Unit 12 Saturday or Sunday?						
第 14 週	Unit 13 I'm Not Good with Computers						
第 15 週	Unit 14 Which Is Better?						
第 16 週	定期試験						
備 考	受講の際には学内 PC でログインするための ID およびパスワードが確認できる状態にしておくこと。毎時間、テキストを持参すること。授業後の復習は必須。授業中、携帯電話やスマートフォンを学習目的以外の用途で使うことは禁止する。						

科目名	総合英語Ⅱ(再)【リハビリ・子ども】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	園 部 ニ コ ル						
開講年次	3～4	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	英語の基礎をしっかりと確認して、全体的に英語を学んでいく。						
授業の 到達目標	1. 日中基本英単語と熟語1000を身に付ける 2. 映像を見ながら聞きながら、身に付ける 3. 現代音楽を聴きながら身に付ける						
学習方法	演習、ペア・ワーク、リスニング訓練、小テスト等						
テキスト及 び参考書等	Everyday Vocabulary Quizzes (Nan'un-Do)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎			80		
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎		10		
受講者の発表							
授業への参加度			◎		10		
その他							
合 計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	Introduction student profiles Song 1						
第 2 週	Everyday Quizzes Lesson 1, 2						
第 3 週	Everyday Quizzes Lesson 3, 4 Song 2						
第 4 週	Everyday Quizzes Lesson 5, 6						
第 5 週	Everyday Quizzes Lesson 7, 8 Song 3						
第 6 週	Everyday Quizzes Lesson 9, 10						
第 7 週	映像 1						
第 8 週	映像 2						
第 9 週	Everyday Quizzes Lesson 11, 12 Song 4						
第 10 週	Everyday Quizzes Lesson 13, 14						
第 11 週	Everyday Quizzes Lesson 15, 16 Song 5						
第 12 週	Everyday Quizzes Lesson 17, 18						
第 13 週	Everyday Quizzes Lesson 19, 20						
第 14 週	映像 3						
第 15 週	映像 4 / 復習とまとめ・学習到達度の確認						
第 16 週							
備 考	テキストを必ず持ってくること。ノートを用意してまとめ宿題をすること。						

科目名	総合英語 I (再)【健栄・社福】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	小 池 知 英						
開講年次	2～4	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	高校までに学習した英文法の基礎を意識しながら、四技能も意識した英語力の強化を図る。						
授 業 の 到達目標	1) 基礎的な語彙を運用できる。 2) 習得した文法事項を用いて、自ら情報発信できる表現力を身につける。 3) 副教材の英語のリズムを理解することができる。 4) 副教材の英文をリズムカルに朗読できる。 5) 副教材の英文を暗誦することができる。 6) 簡単な文章を聞き取ることができる。 7) 簡単な文章をシャドウイングできる。 8) 簡単な文章であれば英問英答ができる。 9) 基本的な語順に則った作文ができる。 10) 基本的な時制を使って適切な表現ができる。						
学習方法	演習、対話形式でのトレーニング						
テキスト及 び参考書等	English First Starter (金星堂)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○					10	
授業態度			◎			10	
受講者の発表							
授業への参加度			◎			10	
その他	○	○	◎	○		20	
	副教材の達成率						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス及び副教材の解説						
第 2 週	Unit 1 It's Nice to Meet You						
第 3 週	Unit 2 Take a Hike						
第 4 週	Unit 3 Don't Wear Your High Heels						
第 5 週	Unit 4 There's Nothing in My Backpack						
第 6 週	Unit 5 What a Small World						
第 7 週	Unit 6 Let's Eat						
第 8 週	Unit 7 It's a Date						
第 9 週	Unit 8 I Have to Study						
第 10 週	Unit 9 What Do You Think of My Sketch?						
第 11 週	Unit 10 Kanji Is So Difficult						
第 12 週	Unit 11 I'll Make a Birthday Cake						
第 13 週	Unit 12 Saturday or Sunday?						
第 14 週	Unit 13 I'm Not Good with Computers						
第 15 週	Unit 14 Which Is Better?						
第 16 週	定期試験						
備 考	受講の際には学内 PC でログインするための ID およびパスワードが確認できる状態にしておくこと。毎時間、テキストを持参すること。授業後の復習は必須。授業中、携帯電話やスマートフォンを学習目的以外の用途で使うことは禁止する。						

科目名	総合英語Ⅱ(再)【健栄・社福】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	園 部 ニ コ ル						
開講年次	3～4	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	英語の基礎をしっかりと確認して、全体的に英語を学んでいく。						
授 業 の 到 達 目 標	1. 日中基本英単語と熟語1000を身に付ける 2. 映像を見ながら聞きながら、身に付ける 3. 現代音楽を聴きながら身に付ける						
学習方法	演習、ペア・ワーク、リスニング訓練、小テスト等						
テキスト及 び参考書等	Everyday Vocabulary Quizzes (Nan'un-Do)						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎					80
宿題・授業外レポート							
授業態度			◎				10
受講者の発表							
授業への参加度			◎				10
その他							
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	Introduction student profiles Song 1						
第 2 週	Everyday Quizzes Lesson 1, 2						
第 3 週	Everyday Quizzes Lesson 3, 4 Song 2						
第 4 週	Everyday Quizzes Lesson 5, 6						
第 5 週	Everyday Quizzes Lesson 7, 8 Song 3						
第 6 週	Everyday Quizzes Lesson 9, 10						
第 7 週	映像 1						
第 8 週	映像 2						
第 9 週	Everyday Quizzes Lesson 11, 12 Song 4						
第 10 週	Everyday Quizzes Lesson 13, 14						
第 11 週	Everyday Quizzes Lesson 15, 16 Song 5						
第 12 週	Everyday Quizzes Lesson 17, 18						
第 13 週	Everyday Quizzes Lesson 19, 20						
第 14 週	映像 3						
第 15 週	映像 4 / 復習とまとめ・学習到達度の確認						
第 16 週							
備 考	テキストを必ず持ってくること。ノートを用意してまとめ宿題をすること。						

科目名	英語会話Ⅰ〈前期〉・英語会話Ⅱ〈後期〉					開講 キャンパス	神 埼
担当者	園 部 ニコル・Gareth Newbold						
開講年次	1	開講期	前期・後期	単位数	各 1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	国際コミュニケーションの為に英会話に基づき学習する。留学や海外での滞りに困らない日常会話を中心に学ぶ。英会話で会話が出来ない最大の原因は、良く聞いても子音の音が聞き取れない事に因る。授業中にその子音が耳に入ってくる様に意識して大きな声で反復発声トレーニングを行う。次に表現パターンや文法を学びペアで訓練をする。ペア訓練は可也効果的なので積極的に授業に取り入れる。ワークブック（プリント）で復習と力試しをする。2回のペアプレゼンテーションで実力アップが図れるようにする。授業は英語が話したくなる切欠提供の場にしたたい。						
授業の 到達目標	国内外の外国人と英語で自由にコミュニケーションを図る事を到達目標とする。積極的に自分の意思を伝え、はっきりとした口調で笑顔を交えて会話が出来るよう英語会話Ⅰと英語会話Ⅱを通してその目標を達成したい。						
学習方法	演習						
テキスト及 び参考書等	Passport 1 Student Book (2nd edition)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎					30	
小テスト等	◎					30	
宿題・授業外レポート							
授業態度				○		10	
受講者の発表							
授業への参加度				◎	◎	30	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
通 年	第1週	Self Introductions, DVD, 歌					
	第2週	Unit 1, workbook 1					
	第3週	Unit 2, workbook 2					
	第4週	Unit 3, workbook 3					
	第5週	Unit 4, workbook 4					
	第6週	Unit 5, workbook 5					
	第7週	Review for pair presentation ①					
	第8週	Pair presentation ① and workbook check U 1-5					
	第9週	Unit 6, workbook 6					
	第10週	Unit 7, workbook 7					
	第11週	Unit 8, workbook 8					
	第12週	Unit 9, workbook 9					
	第13週	Unit 10, workbook 10 and workbook check U 6-10					
	第14週	Grammar Test and workbook check U 1-10					
	第15週	Vocab Test 50問					
	第16週	DVD, 歌					
	第17週	Unit 11, workbook 11					
	第18週	Unit 12, workbook 12					
	第19週	Unit 13, workbook 13					
	第20週	Unit 14, workbook 14					
	第21週	Unit 15, workbook 15					
	第22週	Review for pair presentation ②					
	第23週	pair presentation ② and workbook check U 11-15					
	第24週	Unit 16, workbook 16					
	第25週	Unit 17, workbook 17					
	第26週	Unit 18, workbook 18					
	第27週	Unit 19, workbook 19					
	第28週	Unit 20, workbook 20 and workbook check U 16-20					
	第29週	Grammar Test and workbook check U 11-20					
	第30週	Vocab Test 50問					
	第31週						
	第32週						
備考	テキストを必ず購入する必要があります。毎回テキスト、電子辞書とファイルを持ってくること。5回以上欠席すると不合格になります。						

科目名	英語会話Ⅰ〈前期〉・英語会話Ⅱ〈後期〉					開講 キャンパス	神埼(リハ・心理) 神園(子ども・心理)
担当者	園部 ニコル						
開講年次	1	開講期	前期・後期	単位数	各1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	国際コミュニケーションの為に英会話に基づき学習する。留学や海外での滞在に困らない日常会話を中心に学ぶ。英会話で会話が出来ない最大の原因は、良く聞いても子音の音が聞き取れない事に因る。授業中にその子音が耳に入って来る様に意識して大きな声で反復発声トレーニングを行う。次に表現パターンや文法を学びペアで訓練をする。ペア訓練は可也効果的なので積極的に授業に取り入れる。ワークブック(プリント)で復習と力試しをする。2回のペアプレゼンテーションで実力アップが図れるようにする。授業は英語が話したくなるきっかけ提供の場にしたい。						
授業の到達目標	国内外の外国人と英語で自由にコミュニケーションを図る事を到達目標とする。積極的に自分の意思を伝え、はっきりとした口調で笑顔を交えて会話が出来るよう英語会話Ⅰと英語会話Ⅱを通してその目標を達成したい。						
学習方法	演習						
テキスト及び参考書等	Passport 1 Student Book (2nd edition)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎					30	
小テスト等	◎					30	
宿題・授業外レポート							
授業態度				○		10	
受講者の発表							
授業への参加度				◎	◎	30	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
通 年	第1週	Self Introductions, DVD, 歌					
	第2週	Unit 1, workbook 1					
	第3週	Unit 2, workbook 2					
	第4週	Unit 3, workbook 3					
	第5週	Unit 4, workbook 4					
	第6週	Unit 5, workbook 5					
	第7週	Review for pair presentation ①					
	第8週	Pair presentation ① and workbook check U 1-5					
	第9週	Unit 6, workbook 6					
	第10週	Unit 7, workbook 7					
	第11週	Unit 8, workbook 8					
	第12週	Unit 9, workbook 9					
	第13週	Unit 10, workbook 10 and workbook check U 6-10					
	第14週	Grammar Test and workbook check U 1-10					
	第15週	Vocab Test 50問					
	第16週	DVD, 歌					
	第17週	Unit 11, workbook 11					
	第18週	Unit 12, workbook 12					
	第19週	Unit 13, workbook 13					
	第20週	Unit 14, workbook 14					
	第21週	Unit 15, workbook 15					
	第22週	Review for pair presentation ②					
	第23週	pair presentation ② and workbook check U 11-15					
	第24週	Unit 16, workbook 16					
	第25週	Unit 17, workbook 17					
	第26週	Unit 18, workbook 18					
	第27週	Unit 19, workbook 19					
	第28週	Unit 20, workbook 20 and workbook check U 16-20					
	第29週	Grammar Test and workbook check U 11-20					
	第30週	Vocab Test 50問					
	第31週						
	第32週						
備考	テキストを必ず購入する必要があります。毎回テキスト、電子辞書とファイルを持ってくること。5回以上欠席すると不合格になります。						

科目名	英語会話Ⅰ〈前期〉・英語会話Ⅱ〈後期〉					開講 キャンパス	神 埼
担当者	Gareth Newbold						
開講年次	1	開講期	前期・後期	単位数	各 1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	国際コミュニケーションの為に英会話に基づき学習する。留学や海外での滞在に困らない日常会話を中心に学ぶ。英会話で会話が出来ない最大の原因は、良く聞いても子音の音が聞き取れない事因る。授業中にその子音が耳に入ってくる様に意識して大きな声で反復発声トレーニングを行う。次に表現パターンや文法を学びペアで訓練をする。ペア訓練は可也効果的なので積極的に授業に取り入れる。ワークブック（プリント）で復習と力試しをする。2回のペアプレゼンテーションで実力アップが図れるようにする。授業は英語が話したくなるきっかけ提供の場になりたい。						
授業の 到達目標	国内外の外国人と英語で自由にコミュニケーションを図る事を到達目標とする。積極的に自分の意思を伝え、はっきりとした口調で笑顔を交えて会話が出来るよう英語会話Ⅰと英語会話Ⅱを通してその目標を達成したい。						
学習方法	演習						
テキスト及 び参考書等	Passport 1 Student Book (2nd edition)						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎					30	
小テスト等	◎					30	
宿題・授業外レポート							
授業態度				○		10	
受講者の発表							
授業への参加度				◎	◎	30	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
通 年	第1週	Self Introductions, DVD, 歌					
	第2週	Unit 1, workbook 1					
	第3週	Unit 2, workbook 2					
	第4週	Unit 3, workbook 3					
	第5週	Unit 4, workbook 4					
	第6週	Unit 5, workbook 5					
	第7週	Review for pair presentation ①					
	第8週	Pair presentation ① and workbook check U 1-5					
	第9週	Unit 6, workbook 6					
	第10週	Unit 7, workbook 7					
	第11週	Unit 8, workbook 8					
	第12週	Unit 9, workbook 9					
	第13週	Unit 10, workbook 10 and workbook check U 6-10					
	第14週	Grammar Test and workbook check U 1-10					
	第15週	Vocab Test 50問					
	第16週	DVD, 歌					
	第17週	Unit 11, workbook 11					
	第18週	Unit 12, workbook 12					
	第19週	Unit 13, workbook 13					
	第20週	Unit 14, workbook 14					
	第21週	Unit 15, workbook 15					
	第22週	Review for pair presentation ②					
	第23週	pair presentation ② and workbook check U 11-15					
	第24週	Unit 16, workbook 16					
	第25週	Unit 17, workbook 17					
	第26週	Unit 18, workbook 18					
	第27週	Unit 19, workbook 19					
	第28週	Unit 20, workbook 20 and workbook check U 16-20					
	第29週	Grammar Test and workbook check U 11-20					
	第30週	Vocab Test 50問					
	第31週						
	第32週						
備考	テキストを必ず購入する必要があります。毎回テキスト、電子辞書とファイルを持ってくる。5回以上欠席すると不合格になります。						

科目名	上級英語 I					開講 キャンパス	神 埼
担当者	渡 邊 真理子						
開講年次	3	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	大学院受験・公務員受験・教員採用試験を志す学生、英語力を伸ばしたい意欲的な学生を対象に、受講者各人のニーズに対応した教材を用いた英語教育を行う。						
授業の 到達目標	①本学および他大学大学院の「英語」の過去問を解けるような読解力を身につけることができる。 ②公務員試験の教養問題セクションにおける英文を理解できる読解力を獲得できる。 ③教員採用試験の過去問を解くことができる英語力を習得する。 ④TOEIC や英検などの英語の資格試験受験にも対応できる文法力を強化する。 ⑤普段から英文に触れる環境を自主的に作ることができるようなモチベーションを獲得できる。 ⑥英文の多読と精読によって、自分の目的に合った英語力をバランスよく身につけることができる。 ⑦英文速読の初歩的なスキルを習得できる。						
学習方法	演習、発表						
テキスト及 び参考書等	プリント教材						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○				60	
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			○	◎		20	
授業への参加度			◎			20	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス 英語力チェック						
第 2 週	受講者のニーズに応じた各種プリント問題						
第 3 週	英文法の基礎 1・公務員試験問題 1						
第 4 週	英文法の基礎 2・公務員試験問題 2						
第 5 週	英文法の基礎 3・教員採用試験問題 1						
第 6 週	英文法の基礎 4・教員採用試験問題 2						
第 7 週	第 1 週から第 6 週までのまとめと小テスト						
第 8 週	英文法の基礎 5・大学院入試問題 1						
第 9 週	英文法の基礎 6・大学院入試問題 2						
第 10 週	英文法の基礎 7・各種試験の傾向と対策						
第 11 週	英文速読トレーニング 1・実践問題 1						
第 12 週	英文速読トレーニング 2・実践問題 2						
第 13 週	英文速読トレーニング 3・実践問題 3						
第 14 週	英文速読トレーニング 4・実践問題 4						
第 15 週	第 8 週から第 14 週までのまとめと小テスト						
第 16 週							
備考	授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示: 毎週、英文の長文読解問題を宿題として課す。翌週の授業内で全員に発表してもらうため、予習は必須である。						

科目名	上級英語 I					開講 キャンパス	神 埼
担当者	渡 邊 真理子						
開講年次	3	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	大学院受験・公務員受験・教員採用試験を志す学生、英語力を伸ばしたい意欲的な学生を対象に、受講者各人のニーズに対応した教材を用いた英語教育を行う。						
授業の 到達目標	①本学および他大学大学院の「英語」の過去問を解けるような読解力を身につけることができる。 ②公務員試験の教養問題セクションにおける英文を理解できる読解力を獲得できる。 ③教員採用試験の過去問を解くことができる英語力を習得する。 ④ TOEIC や英検などの英語の資格試験受験にも対応できる文法力を強化する。 ⑤普段から英文に触れる環境を自主的に作るようなモチベーションを獲得できる。 ⑥英文の多読と精読によって、自分の目的に合った英語力をバランスよく身につけることができる。 ⑦英文速読の初歩的なスキルを習得できる。						
学習方法	演習、発表						
テキスト及 び参考書等	プリント教材						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○					60
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			○	◎			20
授業への参加度			◎				20
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	ガイダンス 英語力チェック						
第 2 週	受講者のニーズに応じた各種プリント問題						
第 3 週	英文法の基礎 1 ・ 公務員試験問題 1						
第 4 週	英文法の基礎 2 ・ 公務員試験問題 2						
第 5 週	英文法の基礎 3 ・ 教員採用試験問題 1						
第 6 週	英文法の基礎 4 ・ 教員採用試験問題 2						
第 7 週	第 1 週から第 6 週までのまとめと小テスト						
第 8 週	英文法の基礎 5 ・ 大学院入試問題 1						
第 9 週	英文法の基礎 6 ・ 大学院入試問題 2						
第 10 週	英文法の基礎 7 ・ 各種試験の傾向と対策						
第 11 週	英文速読トレーニング 1 ・ 実践問題 1						
第 12 週	英文速読トレーニング 2 ・ 実践問題 2						
第 13 週	英文速読トレーニング 3 ・ 実践問題 3						
第 14 週	英文速読トレーニング 4 ・ 実践問題 4						
第 15 週	第 8 週から第 14 週までのまとめと小テスト						
第 16 週							
備考	授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示：毎週、英文の長文読解問題を宿題として課す。翌週の授業内で全員に発表してもらうため、予習は必須である。						

科目名	上級英語Ⅱ					開講 キャンパス	神 埼
担当者	渡 邊 真理子						
開講年次	4	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	大学院受験・公務員受験・教員採用試験の直前対策を希望する学生や、英語力を伸ばしたい意欲的な学生を対象に、受講者各人のニーズに対応した教材を用いた英語教育を行う。						
授業の 到達目標	①本学および他大学大学院の「英語」の過去問を解けるような読解力を身につける。 ②公務員試験の教養問題セクションにおける英文を理解できる読解力を獲得する。 ③教員採用試験の過去問を解くことができる英語力を習得する。 ④TOEICや英検などの英語の資格試験受験にも対応できる文法力を強化する。 ⑤普段から英文に触れる環境を自主的に作ることができるようなモチベーションを獲得する。 ⑥英文の多読と精読によって、自分の目的に合った英語力をバランスよく身につける。 ⑦英文速読の初歩的なスキルを習得する。						
学習方法	演習、発表						
テキスト及 び参考書等	プリント教材						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○					60
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			○	◎			20
授業への参加度			◎				20
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	ガイダンス 英語力チェック						
第2週	受講者のニーズに応じた各種プリント問題						
第3週	公務員試験直前対策1						
第4週	公務員試験直前対策2						
第5週	教員採用試験直前対策1						
第6週	教員採用試験直前対策2						
第7週	第1週から第6週までのまとめと理解度チェック						
第8週	大学院入試対策1						
第9週	大学院入試対策2						
第10週	各種試験の傾向と対策						
第11週	実践問題1						
第12週	実践問題2						
第13週	実践問題3						
第14週	実践問題4						
第15週	復習とまとめ						
第16週							
備考	授業外学習 (事前学習・事後学習) の指示：毎週、英文の長文読解問題を宿題として課す。翌週の授業内で全員に発表してもらうため、予習は必須である。						

科目名	上級英語Ⅱ					開講 キャンパス	神 埼
担当者	渡 邊 真理子						
開講年次	4	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	大学院受験・公務員受験・教員採用試験の直前対策を希望する学生や、英語力を伸ばしたい意欲的な学生を対象に、受講者各人のニーズに対応した教材を用いた英語教育を行う。						
授業の 到達目標	①本学および他大学大学院の「英語」の過去問を解けるような読解力を身につける。 ②公務員試験の教養問題セクションにおける英文を理解できる読解力を獲得する。 ③教員採用試験の過去問を解くことができる英語力を習得する。 ④TOEICや英検などの英語の資格試験受験にも対応できる文法力を強化する。 ⑤普段から英文に触れる環境を自主的に作ることができるようなモチベーションを獲得する。 ⑥英文の多読と精読によって、自分の目的に合った英語力をバランスよく身につける。 ⑦英文速読の初歩的なスキルを習得する。						
学習方法	演習、発表						
テキスト及 び参考書等	プリント教材						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○					60
宿題・授業外レポート							
授業態度							
受講者の発表			○	◎			20
授業への参加度			◎				20
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	ガイダンス 英語力チェック						
第2週	受講者のニーズに応じた各種プリント問題						
第3週	公務員試験直前対策1						
第4週	公務員試験直前対策2						
第5週	教員採用試験直前対策1						
第6週	教員採用試験直前対策2						
第7週	第1週から第6週までのまとめと理解度チェック						
第8週	大学院入試対策1						
第9週	大学院入試対策2						
第10週	各種試験の傾向と対策						
第11週	実践問題1						
第12週	実践問題2						
第13週	実践問題3						
第14週	実践問題4						
第15週	復習とまとめ						
第16週							
備考	授業外学習(事前学習・事後学習)の指示:毎週、英文の長文読解問題を宿題として課す。翌週の授業内で全員に発表してもらうため、予習は必須である。						

科目名	ドイツ語(初級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	日 高 雅 彦						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	初めてドイツ語を学ぶ学生を対象に、ドイツ語の発音及び基礎文法について解説する。 授業ではまずテキストのキーセンテンスを基に文法の説明をし、練習問題を解いてもらって知識の定着を図る。グループによる会話練習や、ドイツ文化紹介のためのビデオ視聴も適宜行う。						
授業の 到達目標	1) ドイツ語の文字と発音の関係を理解する。 2) 主語(単数形)に合わせて動詞を正しく変化できる。 3) ドイツ語の名詞に性があることを理解する。 4) 名詞の性に合わせて冠詞を正しく変化できる。 5) ドイツ語の基本語彙を身につける。 6) キーセンテンスを基に、簡単な文章をドイツ語で表現できる。 7) 簡単なドイツ語を聞きとれるようになる。 8) ドイツ語で簡単な自己紹介ができる。 9) ドイツ及びドイツ語圏の文化に関心を持つ。 10) 日本語や英語と異なる言語に触れることで、言語構造の多様性を自覚する。						
学習方法	・講義(ペア/グループによる会話練習や、ドイツ文化紹介のためのビデオ視聴を含む) ・毎回、キーセンテンスと単語を確認する小テストを行う。						
テキスト及 び参考書等	テキスト: 上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』(白水社、2013年) 参考書: 根本道也他『アポロン独和辞典(第三版)』(同学社、2010年)など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○			40		
小テスト等	○	○			40		
宿題・授業外レポート							
授業態度			○		5		
受講者の発表							
授業への参加度			○		10		
その他				○	5		
合計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	オリエンテーション、アルファベット、Lektion 0(発音)						
第2週	Lektion 1	出会いと自己紹介	一動詞の現在人称変化				
第3週	Lektion 1	出会いと自己紹介	一動詞の現在人称変化				
第4週	Lektion 2	家族について尋ねる	一名詞の性/冠詞の格変化				
第5週	Lektion 2	家族について尋ねる	一名詞の性/冠詞の格変化				
第6週	Lektion 3	明日の予定を尋ねる	一不規則変化動詞/命令形				
第7週	Lektion 3	明日の予定を尋ねる	一不規則変化動詞/命令形				
第8週	Lektion 4	買い物に行く(1)	一定冠詞類・不定冠詞類				
第9週	Lektion 4	買い物に行く(1)	一定冠詞類・不定冠詞類				
第10週	Lektion 5	買い物に行く(2)	一複数形/人称代名詞				
第11週	Lektion 5	買い物に行く(2)	一複数形/人称代名詞				
第12週	Lektion 6	週末の予定を尋ねる	一前置詞の格支配				
第13週	Lektion 6	週末の予定を尋ねる	一前置詞の格支配				
第14週	Lektion 7	趣味について尋ねる	一形容詞の格変化				
第15週	Lektion 7	趣味について尋ねる	一形容詞の格変化				
第16週	定期試験実施						
備考	毎回、独和辞典を持参すること。						

科目名	ドイツ語 (初級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	日 高 雅 彦						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	初めてドイツ語を学ぶ学生を対象に、ドイツ語の発音及び基礎文法について解説する。授業ではまずテキストのキーセンテンスを基に文法の説明をし、練習問題を解いてもらって知識の定着を図る。グループによる会話練習や、ドイツ文化紹介のためのビデオ視聴も適宜行う。						
授 業 の 到 達 目 標	1) ドイツ語の文字と発音の関係を理解する。 2) 主語 (単数形) に合わせて動詞を正しく変化できる。 3) ドイツ語の名詞に性があることを理解する。 4) 名詞の性に合わせて冠詞を正しく変化できる。 5) ドイツ語の基本語彙を身につける。 6) キーセンテンスを基に、簡単な文章をドイツ語で表現できる。 7) 簡単なドイツ語を聞きとれるようになる。 8) ドイツ語で簡単な自己紹介ができる。 9) ドイツ及びドイツ語圏の文化に関心を持つ。 10) 日本語や英語と異なる言語に触れることで、言語構造の多様性を自覚する。						
学習方法	・講義 (ペア/グループによる会話練習や、ドイツ文化紹介のためのビデオ視聴を含む) ・毎回、キーセンテンスと単語を確認する小テストを行う。						
テキスト及び参考書等	テキスト：上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』(白水社、2013年) 参考書：根本道也他『アポロン独和辞典 (第三版)』(同学社、2010年) など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○				40	
小テスト等	○	○				40	
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			5	
受講者の発表							
授業への参加度			○			10	
その他				○		5	
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	オリエンテーション、アルファバート、Lektion 0 (発音)						
第 2 週	Lektion 1 出会いと自己紹介 一動詞の現在人称変化						
第 3 週	Lektion 1 出会いと自己紹介 一動詞の現在人称変化						
第 4 週	Lektion 2 家族について尋ねる 一名詞の性/冠詞の格変化						
第 5 週	Lektion 2 家族について尋ねる 一名詞の性/冠詞の格変化						
第 6 週	Lektion 3 明日の予定を尋ねる 一不規則変化動詞/命令形						
第 7 週	Lektion 3 明日の予定を尋ねる 一不規則変化動詞/命令形						
第 8 週	Lektion 4 買い物に行く(1) 一定冠詞類・不定冠詞類						
第 9 週	Lektion 4 買い物に行く(1) 一定冠詞類・不定冠詞類						
第 10 週	Lektion 5 買い物に行く(2) 一複数形/人称代名詞						
第 11 週	Lektion 5 買い物に行く(2) 一複数形/人称代名詞						
第 12 週	Lektion 6 週末の予定を尋ねる 一前置詞の格支配						
第 13 週	Lektion 6 週末の予定を尋ねる 一前置詞の格支配						
第 14 週	Lektion 7 趣味について尋ねる 一形容詞の格変化						
第 15 週	Lektion 7 趣味について尋ねる 一形容詞の格変化						
第 16 週	定期試験実施						
備 考	毎回、独和辞典を持参すること。						

科目名	ドイツ語(中級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	日 高 雅 彦						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	前期の「ドイツ語(初級)」に引き続き、ドイツ語の発音及び基礎文法について解説する。授業ではまずテキストのキーセンテンスを基に文法の説明をし、練習問題を解いてもらって知識の定着を図る。グループによる会話練習や、ドイツ文化紹介のためのビデオ視聴も適宜行う。						
授 業 の 到達目標	1) ドイツ語の文字と発音の関係を理解し、正しく発音できるようになる。 2) 主語(単数形及び複数形)に合わせて動詞を正しく変化できる。 3) 名詞の「格」について理解する。 4) 名詞の性・数・格に合わせて冠詞を正しく変化できる。 5) ドイツ語の基本語彙を身につける。 6) キーセンテンスを基に、簡単な文章をドイツ語で表現できる。 7) 簡単なドイツ語を聞きとれるようになる。 8) 話法の助動詞を用いて、自分の意志や能力を簡単なドイツ語で表現できる。 9) ドイツ及びドイツ語圏の文化に関心を持つ。 10) 日本語や英語と異なる言語に触れることで、言語構造の多様性を自覚する。						
学習方法	・講義(ペア/グループによる会話練習や、ドイツ文化紹介のためのビデオ視聴を含む) ・毎回、キーセンテンスと単語を確認する小テストを行う。						
テキスト及び参考書等	テキスト：上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』(白水社、2013年) 参考書：根本道也他『アポロン独和辞典(第三版)』(同学社、2010年)など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○			40		
小テスト等	○	○			40		
宿題・授業外レポート							
授業態度			○		5		
受講者の発表							
授業への参加度			○		10		
その他				○	5		
合計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	前期の復習、Lektion 8 昼食を食べに行く 一話法の助動詞/未来形						
第2週	Lektion 8 昼食を食べに行く 一話法の助動詞/未来形						
第3週	Lektion 9 駅の窓口で尋ねる 一分離動詞/接続詞と副文						
第4週	Lektion 9 駅の窓口で尋ねる 一分離動詞/接続詞と副文						
第5週	Lektion 10 休暇の計画を尋ねる 一zu不定詞/再帰代名詞						
第6週	Lektion 10 休暇の計画を尋ねる 一zu不定詞/再帰代名詞						
第7週	Lektion 11 旅の経験を語る(1) 一動詞の3基本形/過去形						
第8週	Lektion 11 旅の経験を語る(1) 一動詞の3基本形/過去形						
第9週	Lektion 12 旅の経験を語る(2) 一現在完了形/非人称表現						
第10週	Lektion 12 旅の経験を語る(2) 一現在完了形/非人称表現						
第11週	Lektion 13 意見を交換する(1) 一受動態/比較表現						
第12週	Lektion 13 意見を交換する(1) 一受動態/比較表現						
第13週	Lektion 14 意見を交換する(2) 一関係代名詞/関係副詞						
第14週	Lektion 14 意見を交換する(2) 一関係代名詞/関係副詞						
第15週	Lektion 15 別れと再会の約束 一接続法						
第16週	定期試験実施						
備考	毎回、独和辞典を持参すること。						

科目名	ドイツ語 (中級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	日 高 雅 彦						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	前期の「ドイツ語 (初級)」に引き続き、ドイツ語の発音及び基礎文法について解説する。授業ではまずテキストのキーセンテンスを基に文法の説明をし、練習問題を解いてもらって知識の定着を図る。グループによる会話練習や、ドイツ文化紹介のためのビデオ視聴も適宜行う。						
授業の 到達目標	1) ドイツ語の文字と発音の関係を理解し、正しく発音できるようになる。 2) 主語 (単数形及び複数形) に合わせて動詞を正しく変化できる。 3) 名詞の「格」について理解する。 4) 名詞の性・数・格に合わせて冠詞を正しく変化できる。 5) ドイツ語の基本語彙を身につける。 6) キーセンテンスを基に、簡単な文章をドイツ語で表現できる。 7) 簡単なドイツ語を聞きとれるようになる。 8) 話法の助動詞を用いて、自分の意志や能力を簡単なドイツ語で表現できる。 9) ドイツ及びドイツ語圏の文化に関心を持つ。 10) 日本語や英語と異なる言語に触れることで、言語構造の多様性を自覚する。						
学習方法	・講義 (ペア/グループによる会話練習や、ドイツ文化紹介のためのビデオ視聴を含む) ・毎回、キーセンテンスと単語を確認する小テストを行う。						
テキスト及 び参考書等	テキスト：上野成利・本田雅也『パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール』(白水社、2013年) 参考書：根本道也他『アポロン独和辞典 (第三版)』(同学社、2010年) など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○				40	
小テスト等	○	○				40	
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			5	
受講者の発表							
授業への参加度			○			10	
その他				○		5	
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	前期の復習、Lektion 8 昼食を食べに行く 一話法の助動詞/未来形						
第 2 週	Lektion 8 昼食を食べに行く 一話法の助動詞/未来形						
第 3 週	Lektion 9 駅の窓口で尋ねる 一分離動詞/接続詞と副文						
第 4 週	Lektion 9 駅の窓口で尋ねる 一分離動詞/接続詞と副文						
第 5 週	Lektion 10 休暇の計画を尋ねる 一zu不定詞/再帰代名詞						
第 6 週	Lektion 10 休暇の計画を尋ねる 一zu不定詞/再帰代名詞						
第 7 週	Lektion 11 旅の経験を語る(1) 一動詞の3基本形/過去形						
第 8 週	Lektion 11 旅の経験を語る(1) 一動詞の3基本形/過去形						
第 9 週	Lektion 12 旅の経験を語る(2) 一現在完了形/非人称表現						
第 10 週	Lektion 12 旅の経験を語る(2) 一現在完了形/非人称表現						
第 11 週	Lektion 13 意見を交換する(1) 一受動態/比較表現						
第 12 週	Lektion 13 意見を交換する(1) 一受動態/比較表現						
第 13 週	Lektion 14 意見を交換する(2) 一関係代名詞/関係副詞						
第 14 週	Lektion 14 意見を交換する(2) 一関係代名詞/関係副詞						
第 15 週	Lektion 15 別れと再会の約束 一接続法						
第 16 週	定期試験実施						
備考	毎回、独和辞典を持参すること。						

科目名	フランス語(初級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	前 川 完						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	初めてフランス語を学ぶ人がほとんどだと思いますが、英語との類似点が多いので、これまでに学んだ英語の運用能力も必要です。テキストに沿って最初歩の文法事項を説明します。毎回少なくともひとつのフレーズを理解し暗記しなければいけません。						
授業の 到達目標	1) フランス語の構造をおおまかに理解すること 2) そのために必須の基本的文法事項の習得 3) 使用頻度の高い日常的表現の学習						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：『TOUT FACILE』大湾宗定著・白水社 参考書：『Le Dico 現代フランス語辞典』白水社など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	○	○				10	
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			10	
受講者の発表			○			10	
授業への参加度			○			10	
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	アルファベットと基礎的な発音						
第 2 週	挨拶、お礼、お詫びの表現、数詞 1						
第 3 週	名詞の性と数、不定冠詞						
第 4 週	定冠詞、部分冠詞、身分・職業と自己紹介						
第 5 週	主語人称代名詞と動詞 ETRE の活用						
第 6 週	動詞 AVOIR の活用と慣用表現						
第 7 週	提示の表現、曜日と日付						
第 8 週	形容詞の位置、克明・国籍						
第 9 週	第 1 群規則同士の活用、数詞 2						
第 10 週	否定文と疑問文、返答						
第 11 週	所有形容詞、指示形容詞						
第 12 週	3 種類の命令法						
第 13 週	動詞 ALLER と近接未来、縮約形 1						
第 14 週	動詞 VENIR と近接過去、縮約形 2						
第 15 週	前期のまとめ						
第 16 週	試験						
備考							

科目名	フランス語 (初級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	前 川 完						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	初めてフランス語を学ぶ人がほとんどだと思いますが、英語との類似点が多いので、これまでに学んだ英語の運用能力も必要です。テキストに沿って最初歩の文法事項を説明します。毎回少なくともひとつのフレーズを理解し暗記しなければいけません。						
授業の 到達目標	1) フランス語の構造をおおまかに理解すること 2) そのために必須の基本的文法事項の習得 3) 使用頻度の高い日常的表現の学習						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：『TOUT FACILE』大湾宗定著・白水社 参考書：『Le Dico 現代フランス語辞典』白水社など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	○	○				10	
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			10	
受講者の発表			○			10	
授業への参加度			○			10	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	アルファベットと基礎的な発音						
第 2 週	挨拶、お礼、お詫びの表現、数詞 1						
第 3 週	名詞の性と数、不定冠詞						
第 4 週	定冠詞、部分冠詞、身分・職業と自己紹介						
第 5 週	主語人称代名詞と動詞 ETRE の活用						
第 6 週	動詞 AVOIR の活用と慣用表現						
第 7 週	提示の表現、曜日と日付						
第 8 週	形容詞の位置、克明・国籍						
第 9 週	第 1 群規則同士の活用、数詞 2						
第 10 週	否定文と疑問文、返答						
第 11 週	所有形容詞、指示形容詞						
第 12 週	3 種類の命令法						
第 13 週	動詞 ALLER と近接未来、縮約形 1						
第 14 週	動詞 VENIR と近接過去、縮約形 2						
第 15 週	前期のまとめ						
第 16 週	試験						
備考							

科目名	フランス語(中級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	前 川 完						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	前期同様、毎回最低ひとつのフレーズは習得しなければなりません。通年の授業が終わった時点でフランス語検定の5級合格を目指します						
授 業 の 到 達 目 標	1) 初級で学んだ文法事項に加え、過去や未来、仮定の表現を知ること 2) 日常的な語彙を増やし、より正確な発音を身につけること 3) 自分の考えや要望などを相手に伝える程度の言語運用法の習得 4) 仏語検定5級レベルへの到達						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：『TOUT FACILE』大湾宗定著・白水社 参考書：『Le Dico 現代フランス語辞典』白水社など						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	○	○				10	
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			10	
受講者の発表			○			10	
授業への参加度			○			10	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	後期のオリエンテーション						
第 2 週	代名動詞 1						
第 3 週	代名動詞 2						
第 4 週	関係代名詞 1、過去分詞						
第 5 週	複合過去 1						
第 6 週	複合過去 2						
第 7 週	比較、非人称構文 2						
第 8 週	半過去と大過去						
第 9 週	中性代名詞、強調構文						
第 10 週	単純未来と前未来						
第 11 週	関係代名詞 2						
第 12 週	代名動詞の命令法、序数						
第 13 週	条件法						
第 14 週	接続法						
第 15 週	後期のまとめ						
第 16 週	試験						
備 考							

科目名	フランス語 (中級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	前 川 完						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	前期同様、毎回最低ひとつのフレーズは習得しなければなりません。通年の授業が終わった時点でフランス語検定の5級合格を目指します。						
授業の 到達目標	1) 初級で学んだ文法事項に加え、過去や未来、過程の表現を知ること 2) 日常的な語彙を増やし、より正確な発音を身につけること 3) 自分の考えや要望などを相手に伝える程度の言語運用法の習得 4) 仏語検定5級のレベルへの到達						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：『TOUT FACILE』大湾宗定著・白水社 参考書：『Le Dico 現代フランス語辞典』白水社など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	○	○				10	
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			10	
受講者の発表			○			10	
授業への参加度			○			10	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	後期のオリエンテーション						
第2週	代名動詞1						
第3週	代名動詞2						
第4週	関係代名詞1、過去分詞						
第5週	複合過去1						
第6週	複合過去2						
第7週	比較、非人称構文2						
第8週	半過去と大過去						
第9週	中性代名詞、強調構文						
第10週	単純未来と前未来						
第11週	関係代名詞2						
第12週	代名動詞の命令法、序数						
第13週	条件法						
第14週	接続法						
第15週	後期のまとめ						
第16週	試験						
備考							

科目名	中国語(初級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	荒 木 雪 葉						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	中国語の基礎力を身につけ、簡単な中国語の文章を理解し、また話せるようになることを目標とする。初めて中国語に触れる人が多いと思われるので、中国語の基礎である発音や簡体字、文法の構造をしっかりと把握することが望まれる。 発音すべきときは声を出すこと、また課題はきちんとやってくること。						
授業の 到達目標	1) 中国語の発音を身につける。 2) 中国語の基本的文法を理解する。 3) 中国で用いられる簡体字を読み書きできる。 4) 簡単な中国語を話すことができる。						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：徐送迎『たのしくできる We Can! 中国語 初級』（朝日出版社） 2013年1月 参考書：『中日辞典』（小学館）など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	○	○				25	
宿題・授業外レポート							
授業態度				○		5	
受講者の発表				○		5	
授業への参加度				○		5	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	発音						
第2週	第1課 こんにちは						
第3週	第2課 名前のたずねかた						
第4週	第3課 郵便局						
第5週	第4課 おはよう						
第6週	第5課 お元気ですか						
第7週	第6課 何人家族						
第8週	第7課 いくらですか						
第9週	第8課 年齢						
第10週	第9課 アルバイト						
第11週	第10課 マンガ						
第12週	第11課 両替						
第13週	第12課 かぜ						
第14週	まとめ (1)						
第15週	まとめ (2)						
第16週							
備考							

科目名	中国語(初級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	荒 木 雪 葉						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	中国語の基礎力を身につけ、簡単な中国語の文章を理解し、また話せるようになることを目標とする。初めて中国語に触れる人が多いと思われるので、中国語の基礎である発音や簡体字、文法の構造をしっかりと把握することが望まれる。 発音すべきときは声を出すこと、また課題はきちんとやってくること。						
授業の 到達目標	1) 中国語の発音を身につける。 2) 中国語の基本的文法を理解する。 3) 中国で用いられる簡体字を読み書きできる。 4) 簡単な中国語を話すことができる。						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：徐送迎『たのしくできる We Can! 中国語 初級』(朝日出版社) 2013年1月 参考書：『中日辞典』(小学館) など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	○	○				25	
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			5	
受講者の発表			○			5	
授業への参加度			○			5	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	発音						
第2週	第1課 こんにちは						
第3週	第2課 名前のたずねかた						
第4週	第3課 郵便局						
第5週	第4課 おはよう						
第6週	第5課 お元気ですか						
第7週	第6課 何人家族						
第8週	第7課 いくらですか						
第9週	第8課 年齢						
第10週	第9課 アルバイト						
第11週	第10課 マンガ						
第12週	第11課 両替						
第13週	第12課 かぜ						
第14週	まとめ(1)						
第15週	まとめ(2)						
第16週							
備考							

科目名	中国語(中級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	荒 木 雪 葉						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	初級の内容を踏まえて、さらに継続して文法や言い回しなどを習得し、簡単な会話ができることや簡単な作文ができることを目標とする。原則として、テキストは二週間で一課進む。予復習をじっくりと行うことで、中国語を「使える言語」として身につけてゆく。発音すべきときは声を出すこと、また課題はきちんとやってくること。						
授業の 到達目標	1) 中国語の文法を理解する。 2) 中国語で簡単な会話をすることができる。 3) 中国語で簡単な文章を書くことができる。						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：徐送迎『たのしくできる We Can! 中国語 初級』(朝日出版社) 2013年1月 参考書：『中日辞典』(小学館) など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	○	○				25	
宿題・授業外レポート							
授業態度				○		5	
受講者の発表				○		5	
授業への参加度				○		5	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	第13課 眠い						
第2週	第14課 長城						
第3週	第15課 誕生日						
第4週	第16課 料理						
第5週	第17課 趣味						
第6週	第18課 電話をする						
第7週	第19課 料理を注文する						
第8週	第20課 携帯電話						
第9週	第21課 タクシーを拾う						
第10週	第22課 展覧会						
第11週	第23課 サッカーの試合						
第12週	第24課 スポーツジム						
第13週	第25課 よいニュース						
第14週	まとめ(1)						
第15週	まとめ(2)						
第16週							
備考							

科目名	中国語(中級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	荒 木 雪 葉						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	初級の内容を踏まえて、さらに継続して文法や言い回しなどを習得し、簡単な会話ができることや簡単な作文ができることを目標とする。原則として、テキストは二週間で一課進む。予復習をじっくりと行うことで、中国語を「使える言語」として身につけてゆく。発音すべきときは声を出すこと、また課題はきちんとやってくること。						
授業の 到達目標	1) 中国語の文法を理解する。 2) 中国語で簡単な会話をするができる。 3) 中国語で簡単な文章を書くことができる。						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：徐送迎『たのしくできる We Can! 中国語 初級』(朝日出版社) 2013年1月 参考書：『中日辞典』(小学館)など						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				60	
小テスト等	○	○				25	
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			5	
受講者の発表			○			5	
授業への参加度			○			5	
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	第13課 眠い						
第2週	第14課 長城						
第3週	第15課 誕生日						
第4週	第16課 料理						
第5週	第17課 趣味						
第6週	第18課 電話をする						
第7週	第19課 料理を注文する						
第8週	第20課 携帯電話						
第9週	第21課 タクシーを拾う						
第10週	第22課 展覧会						
第11週	第23課 サッカーの試合						
第12週	第24課 スポーツジム						
第13週	第25課 よいニュース						
第14週	まとめ(1)						
第15週	まとめ(2)						
第16週							
備考							

科目名	韓国語(初級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	文 芝 瑛						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	韓国語とよばれる「ハングル」の基礎力を身につけ、韓国語の簡単な文章の読み・聴取、もしくは話ができるようになることを目標とする。 初めて韓国語に触れる人が多いと思われるので、基礎である発音と文法をしっかりと理解する。						
授業の 到達目標	1) 韓国語の発音「母音+子音」を身につける。 2) 韓国語の基本的な文法を理解する。 3) 韓国語を読み書きできる。 4) 簡単な韓国語を話すことができる。						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：金順玉／阪堂千津子『(新) チャレンジ韓国語』2012年4月30日発行						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○				80	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○					10	
授業態度				○		5	
受講者の発表							
授業への参加度				○		5	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	オリエンテーション						
第2週	基本母音字母と合成母音字母(1)						
第3週	基本母音字母						
第4週	合成母音字母(2)						
第5週	パッチム(終声)(1)						
第6週	パッチム(修声)(2)						
第7週	私は～です。						
第8週	自己紹介をしてみましょう。						
第9週	時間ありますか。(1)						
第10週	時間ありますか。(2)						
第11週	それは何ですか。(1)						
第12週	それは何ですか。(2)						
第13週	韓国の文化について						
第14週	全体の復習(1)						
第15週	全体の復習(2)						
第16週	試験						
備考							

科目名	韓国語(初級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	文 芝 瑛						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	韓国語とよばれる「ハングル」の基礎力を身につけ、韓国語の簡単な文章の読み・聴取、もしくは話ができるようになることを目標とする。 初めて韓国語に触れる人が多いと思われるので、基礎である発音と文法をしっかりと理解する。						
授業の 到達目標	1) 韓国語の発音「母音+子音」を身につける。 2) 韓国語の基本的な文法を理解する。 3) 韓国語を読み書きできる。 4) 簡単な韓国語を話すことができる。						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：金順玉／阪堂千津子『(新) チャレンジ韓国語』2012年4月30日発行						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				80	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○					10	
授業態度			○			5	
受講者の発表							
授業への参加度			○			5	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	オリエンテーション						
第2週	基本母音字母と合成母音字母(1)						
第3週	基本母音字母						
第4週	合成母音字母(2)						
第5週	パッチム(終声)(1)						
第6週	パッチム(修声)(2)						
第7週	私は～です。						
第8週	自己紹介をしてみましょう。						
第9週	時間ありますか。(1)						
第10週	時間ありますか。(2)						
第11週	それは何ですか。(1)						
第12週	それは何ですか。(2)						
第13週	韓国の文化について						
第14週	全体の復習(1)						
第15週	全体の復習(2)						
第16週	試験						
備考							

科目名	韓国語(中級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	文 芝 瑛						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	韓国語の初級の内容を踏まえて、さらにレベルを上げます。文法や言い回しなどを習得します。韓国語で簡単な会話や作文ができることを目標とします。 初級の時よりも予復習をしっかりと行うようにします。						
授業の 到達目標	1) 韓国語の文法を理解する。 2) 韓国語で簡単な会話ができる。 3) 韓国語で簡単な文章を書くことができる。						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：金順玉／阪堂千津子『(新) チャレンジ韓国語』2012年4月30日発行						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	◎	◎				80	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○					10	
授業態度			○			5	
受講者の発表							
授業への参加度			○			5	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	初級内容の確認						
第2週	日曜日に何をしますか。						
第3週	数詞を習いましょう。						
第4週	何が好きですか。						
第5週	用言の活用						
第6週	週末に何をしますか。(1)						
第7週	週末に何をしますか。(2)						
第8週	明日は何をするつもりですか。						
第9週	買い物をしてみましょう。						
第10週	スープが冷たくておいしいです。(1)						
第11週	スープが冷たくておいしいです。(2)						
第12週	一度遊びに来てください。(1)						
第13週	一度遊びに来てください。(2)						
第14週	全体の復習 (1)						
第15週	全体の復習 (2)						
第16週	試験						
備考							

科目名	韓国語 (中級)					開講 キャンパス	神 埼
担当者	文 芝 瑛						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	1	必修・選択	選択必修
授業の概要 及びねらい	韓国語の初級の内容を踏まえて、さらにレベルを上げます。文法や言い回しなどを習得します。韓国語で簡単な会話や作文ができることを目標とします。 初級の時よりも予復習をしっかりと行うようにします。						
授業の 到達目標	1) 韓国語の文法を理解する。 2) 韓国語で簡単な会話ができる。 3) 韓国語で簡単な文章を書くことができる。						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	テキスト：金順玉／阪堂千津子『(新) チャレンジ韓国語』2012年4月30日発行						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○				80	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○					10	
授業態度				○		5	
受講者の発表							
授業への参加度				○		5	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	初級内容の確認						
第 2 週	日曜日に何をしますか。						
第 3 週	数詞を習いましょう。						
第 4 週	何が好きですか。						
第 5 週	用言の活用						
第 6 週	週末に何をしますか。(1)						
第 7 週	週末に何をしますか。(2)						
第 8 週	明日は何をするつもりですか。						
第 9 週	買い物をしてみましょう。						
第 10 週	スープが冷たくておいしいです。(1)						
第 11 週	スープが冷たくておいしいです。(2)						
第 12 週	一度遊びに来てください。(1)						
第 13 週	一度遊びに来てください。(2)						
第 14 週	全体の復習 (1)						
第 15 週	全体の復習 (2)						
第 16 週	試験						
備考							

科目名	健康・スポーツ科学【健栄】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	管 原 正 志						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	人間が心身ともに健康であるためには、身体活動・栄養・休養は不可欠な要素である。授業では、健康と運動の関連性についてスポーツ医・科学についての最新の研究による知識を学び、心身ともに健康の維持・増進が計れるように分かり易く解説する。						
授業の 到達目標	①健康の維持・増進のための知識・理解度を高める。 ②生涯にわたり「健康とは何か」を考え、青年期から適切な生活習慣を確立することができる。 ③生涯にわたり健康の維持増進のできる基礎知識や技能を習得することをねらいとする。 ④身体運動が生活習慣病予防をはじめとして健康の保持増進に役立つことを理解して自己管理能力を身につける。						
学習方法	講義では、プリント、スライド等を使用して解説する。						
テキスト及 び参考書等	必要に応じて、関係する資料を配付する。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○					50
宿題・授業外レポート	◎	○		○			30
授業態度				○			10
受講者の発表							
授業への参加度				○			10
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	健康の歴史的変遷、健康の定義						
第 2 週	青年期の健康を考える						
第 3 週	衛生統計より健康を読み解く						
第 4 週	感染症を知ろう						
第 5 週	青年期の性感染症						
第 6 週	母子保健を知ろう						
第 7 週	心の健康						
第 8 週	生活習慣病の予防						
第 9 週	運動と栄養、休養						
第 10 週	身体運動のメカニズム① (筋の収縮様式)						
第 11 週	身体運動のメカニズム② (エネルギー供給の仕組み)						
第 12 週	身体運動のメカニズム③ (呼吸・循環器の働き、神経の役割)						
第 13 週	身体組成及び自身の体格を評価する						
第 14 週	身体運動時の障害予防						
第 15 週	まとめ						
第 16 週							
備 考	事前事後学習については授業ごとに指示を行う。						

科目名	健康・スポーツ科学【社福・スポ】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	池 田 知 子						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	現代において多くの健康に関する様々な問題が生じている。今後、生活習慣の見直しと積極的な健康づくりが重要となる。特に運動やスポーツ活動は、個人の健康づくりに重要な役割を果たしており、地域や社会においても大きな影響を与えている。本授業では、わが国の健康状況や生活習慣を中心とした健康問題を解説するとともに、身体運動のメカニズムや健康への運動効果、スポーツ活動を通じた健康・体力づくりを説明することで、これからの積極的な健康行動の実践へ結び付けていく。また、障害者スポーツやバイオメカニクスの視点で、スポーツ活動を説明する。						
授業の 到達目標	①知識・理解 ・肥満、ストレス、喫煙、飲酒が健康に与える影響について説明できる。 ・身体運動のメカニズムと健康、体力づくりとの関係を説明できる。 ・運動実践の心理社会的効果や技法を説明できる。 ・障害者スポーツの理解とその活動を説明できる。 ・スポーツ活動をバイオメカニクスの視点からとらえることができる。 ②思考・判断 ・現代社会における健康状況とその問題点を指摘できる。 ③関心・意欲 ・自らの健康や体力づくりに関心を持つ。 ④態度 ・これからの健康増進に積極的に取り組む態度を養う。						
学習方法	講義						
テキスト及 び参考書等	必要に応じて資料の配布や参考書等の紹介をする。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	◎				50	
宿題・授業外レポート	◎	○	○			30	
授業態度			○			10	
受講者の発表							
授業への参加度			○			10	
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
第 1 週	健康と社会①現代社会の特徴と健康状況						
第 2 週	健康と社会②健康の概念と健康阻害要因						
第 3 週	健康管理 ①健康と栄養、運動、休養						
第 4 週	健康管理 ②健康増進施策						
第 5 週	健康の実践①肥満と健康 ②健康と運動習慣						
第 6 週	健康の実践③ストレスとその対処方						
第 7 週	健康・体力づくり①発育、発達 ②運動による身体の変化						
第 8 週	健康・体力づくり③身体運動のメカニズム						
第 9 週	健康・体力づくり④運動行動の変容過程						
第 10 週	健康・体力づくり⑤健康体力づくりの処方						
第 11 週	健康・体力づくり⑥スポーツとバイオメカニクス						
第 12 週	スポーツと社会 ①スポーツの意義と動機付け ②地域における活動と生活化						
第 13 週	障害者スポーツの意義と効果、全国障害者スポーツ大会の目的						
第 14 週	全国障害者スポーツ大会実施の概要、障害者スポーツ指導員の資格認定制度						
第 15 週	スポーツと安全管理及び救急法						
第 16 週	試験						
備考							

科目名	健康・スポーツ科学					開講 キャンパス	神埼(リハ) 神園(子ども・心理)
担当者	管原正志						
開講年次	1	開講期	後期	単位数	2	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	人間が心身ともに健康であるためには、身体活動・栄養・休養は不可欠な要素である。授業では、健康と運動の関連性についてスポーツ医・科学についての最新の研究による知識を学び、心身ともに健康の維持・増進が計れるように分かり易く解説する。						
授業の 到達目標	①健康の維持・増進のための知識・理解度を高める。 ②生涯にわたり「健康とは何か」を考え、青年期から適切な生活習慣を確立することができる。 ③生涯にわたり健康の維持増進のできる基礎知識や技能を習得することをねらいとする。 ④身体運動が生活習慣病予防をはじめとして健康の保持増進に役立つことを理解して自己管理能力を身につける。						
学習方法	講義では、プリント、スライド等を使用して解説する。						
テキスト及 び参考書等	必要に応じて、関係する資料を配付する。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等	◎	○					50
宿題・授業外レポート	◎	○	○				30
授業態度			○				10
受講者の発表							
授業への参加度			○				10
その他							
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	健康の歴史の変遷、健康の定義						
第2週	青年期の健康を考える						
第3週	衛生統計より健康を読み解く						
第4週	感染症を知ろう						
第5週	青年期の性感染症						
第6週	母子保健を知ろう						
第7週	心の健康						
第8週	生活習慣病の予防						
第9週	運動と栄養、休養						
第10週	身体運動のメカニズム①(筋の収縮様式)						
第11週	身体運動のメカニズム②(エネルギー供給の仕組み)						
第12週	身体運動のメカニズム③(呼吸・循環器の働き、神経の役割)						
第13週	身体組成及び自身の体格を評価する						
第14週	身体運動時の障害予防						
第15週	まとめ						
第16週							
備考							

科目名	フィットネス・スポーツ【健栄】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	近 藤 芳 昭・池 田 知 子						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	本授業では、各種の運動、スポーツを通して健康、体力の維持向上とともに、生涯を通しての健康、体力づくりが実践できる能力や態度を養うことをねらいとする。そのために、各種スポーツに親しみ、それに伴う体力や技術の向上心を養い、健康への関心を高める。また、各種スポーツにおけるルール等を説明し、ゲームを通して他者への理解と協力する態度を身につけ、楽しく実践できるよう指導する。自ら率先して、準備や安全管理等について行動できる態度も重要である。						
授業の 到達目標	①知識・理解 ・準備運動、整理運動の必要性を理解し、正しく実践できる。 ・各種スポーツのルールを理解し、マナーをもって実践できる。 ②思考・判断 ・各自の体力や運動能力に応じて実技を実践できる。 ・安全に気を配り、他者への理解と配慮ができる。 ③関心・意欲・態度 ・各種スポーツを通じて、体力や健康への向上心をもつ。 ・用具の準備や施設整備に積極的に参加行動する。 ④技能・表現 ・個人やチームにおける各種スポーツの技術を高める努力をする。 ・チームで協力し、楽しくスポーツが実践できる。						
学習方法	実技						
テキスト及 び参考書等	必要に応じて、指示する。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度	○		◎			60	
受講者の発表							
授業への参加度			◎			30	
その他		○		○		10	
	ゲーム（試合）						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	オリエンテーション（グループ分け、授業の進め方、授業内容等）						
第 2 週	レク・ハイキング（日の隈山）						
第 3 週	屋内スポーツ（バレーボール）						
第 4 週	屋内スポーツ（バレーボール）						
第 5 週	屋内スポーツ（卓球）						
第 6 週	屋内スポーツ（卓球）						
第 7 週	屋内スポーツ（バドミントン）						
第 8 週	屋内スポーツ（バドミントン）						
第 9 週	屋外スポーツ（ソフトボール）						
第 10 週	屋外スポーツ（ソフトボール）						
第 11 週	屋外スポーツ（テニス）						
第 12 週	屋外スポーツ（テニス）						
第 13 週	屋外スポーツ（サッカー）						
第 14 週	屋外スポーツ（サッカー）						
第 15 週	全体講義（熱中症予防対策、これからの健康・体力づくりへの取り組み等）、まとめ						
第 16 週							
備考	体調を整え、実施種目の競技規則などを事前に調べて授業に参加すること。なお、実技ができる服装を着用すること。						

科目名	フィットネス・スポーツ【社福・スポ】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	山 田 力 也・堤 公 一						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	本授業では、先ず、健康ウォーキングが日常生活でも実践できるよう、基本的な姿勢や心拍数による運動強度の把握方法などを説明する。さらに、様々なニューススポーツ及び障害者スポーツを取り入れ、気軽に楽しい身体運動から総合的な運動能力の獲得を身につけさせることをねらいとする。また、これらニューススポーツ及び障害者スポーツ種目を用いた健康・体力づくりの支援者としての知識も教授する。						
授業の 到達目標	【知識・理解】 ・身体運動を通じた健康保持・増進について理解し、説明できる。 ・実施スポーツのルールや特性を理解する。 ・安全管理の基本的な項目と内容を理解できる。 【思考・判断】 ・身体運動の心身への効果を体感し、日常生活に役立てることができる。 ・安全に気を配り、他者への理解と配慮ができる。 【関心・意欲・態度】 ・体力や能力に応じて身体運動を積極的に行うことができる。 ・実施スポーツをチームで協力し楽しく行うことができる。 【技能・表現】 ・準備運動、整理運動の必要性が説明でき、正しく行える。 ・ニューススポーツ及び障害者スポーツを理解し支援できる。						
学習方法	実技						
テキスト及 び参考書等	必要に応じてプリントを配布する。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度	○		◎				60
受講者の発表							
授業への参加度			◎				30
その他		○			○		10
	ゲーム（試合）						
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	オリエンテーション（グループ分け、授業の進め方、授業内容等）						
第2週	準備運動及び整理運動の必要性和注意点						
第3週	健康ウォーキング基礎 ①ウォーキングフォーム ②歩幅と歩数と速度 ③歩行スピードと心拍数						
第4週	健康ウォーキングの実際						
第5週	フライングディスク競技（基本練習）						
第6週	フライングディスク競技（アキュラシー） ※障がいのある人に応じた工夫と実施(1)						
第7週	フライングディスク競技（ディスクゴルフ） ※障がいのある人に応じた工夫と実施(2)						
第8週	フライングディスク競技（アルティメット① ルール説明、基本練習）						
第9週	フライングディスク競技（アルティメット② ゲーム）						
第10週	インディアカ（ルール説明、基本練習、ゲーム）						
第11週	グラウンドゴルフ（ルール説明、練習、ゲーム）						
第12週	ユニホック（ルール説明、練習、ゲーム）						
第13週	チャレンジ・ザ・ゲームの説明と実施①（基本ルールの理解）						
第14週	チャレンジ・ザ・ゲームの説明と実施②（応用：記録に挑戦）						
第15週	全体講義（これからの体力づくりへの取り組み等）、まとめ						
第16週							
備考	体調を整え、実施種目の競技規則などを事前に調べて授業に参加すること。 なお、実技ができる服装を着用すること。						

科目名	フィットネス・スポーツ【リハビリ】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	音 成 道 彦・山 田 力 也						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	<p>本授業では、先ず、健康ウォーキングが日常生活でも実践できるよう、基本的な姿勢や心拍数による運動強度の把握方法などを説明する。さらに、様々なニューススポーツ及び障害者スポーツを取り入れ、気軽に楽しい身体運動から総合的な運動能力の獲得を身につけさせることをねらいとする。また、これらニューススポーツ及び障害者スポーツ種目を用いた健康・体力づくりの支援者としての知識も教授する。</p>						
授業の 到達目標	<p>【知識・理解】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体運動を通じた健康保持・増進について理解することができる。 ・実施スポーツのルールや特性を理解する。 ・安全管理の基本的な項目と内容を理解できる。 <p>【思考・判断】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・身体運動の心身への効果を体感し、日常生活に役立てることができる。 ・安全に気を配り、他者への理解と配慮ができる。 <p>【関心・意欲・態度】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体力や能力に応じて積極的に行うことができる。 ・チームで協力し楽しく行うことができる。 <p>【技能・表現】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・準備運動、整理運動の必要性が説明でき、正しく行える。 ・ニューススポーツ及び障害者スポーツを理解し支援できる。 						
学習方法	実技						
テキスト及 び参考書等	必要に応じてプリントを配布する。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度	○		◎			60	
受講者の発表							
授業への参加度			◎			30	
その他		○			○	10	
	ゲーム（試合）						
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第1週	オリエンテーション（グループ分け、授業の進め方、授業内容等）						
第2週	準備運動及び整理運動の必要性和注意点						
第3週	健康ウォーキング基礎 ①ウォーキングフォーム ②歩幅と歩数と速度 ③歩行スピードと心拍数						
第4週	健康ウォーキングの実際						
第5週	フライングディスク競技（基本練習）						
第6週	フライングディスク競技（アキュラシー） ※障がいのある人に応じた工夫と実施(1)						
第7週	フライングディスク競技（ディスクゴルフ） ※障がいのある人に応じた工夫と実施(2)						
第8週	フライングディスク競技（アルティメット① ルール説明、基本練習）						
第9週	フライングディスク競技（アルティメット② ゲーム）						
第10週	インディアカ（ルール説明、基本練習、ゲーム）						
第11週	グラウンドゴルフ（ルール説明、練習、ゲーム）						
第12週	ユニホック（ルール説明、練習、ゲーム）						
第13週	チャレンジ・ザ・ゲームの説明と実施①（基本ルールの理解）						
第14週	チャレンジ・ザ・ゲームの説明と実施②（応用：記録に挑戦）						
第15週	全体講義（これからの体力づくりへの取り組み等）、まとめ						
第16週							
備考	<p>体調を整え、各種目のルールについて調べて授業に参加すること。 なお、実技ができる服装を着用すること。</p>						

科目名	フィットネス・スポーツ【子ども・心理】					開講 キャンパス	神園
担当者	福本敏雄(子ども)・管原正志(心理)						
開講年次	1	開講期	前期	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	本授業では、現代社会における健康問題と運動の関係、健康維持・増進の方法、体力低下などの諸問題の解説を通して、各種の運動、スポーツを通して、健康、体力づくりが実践できる能力や態度を説明する。さらに生涯スポーツを目標に日常生活でも実践できるようなスポーツの実践法についても説明する。また、様々なニューススポーツも取り入れ、そのニューススポーツの面白さや意味や価値、各種の運動における準備や安全管理等についても指導、説明する。						
授業の 到達目標	①知識・理解 ・現代社会における健康について理解することができる。 ・スポーツを実施する際の安全管理の基本的な項目と内容を理解できる。 ②思考・判断 ・運動・スポーツ実践の心身への効果を体感し、体力の向上に役立てることができる。 ・自分の健康・体力について考えることができる。 ③関心・意欲・態度 ・生涯スポーツの実践に関心を持つことができる。 ・スポーツ実践に対して積極的に活動を行うことができる。 ・ニューススポーツを通して楽しく運動ができる。 ・ボールを使つての楽しい運動ができる。 ④技能・表現 ・グループで話し合い、チームに合った作戦や練習計画を立案できる。 ・準備運動、整理運動の必要性が説明でき、正しく行える。						
学習方法	実技・演習						
テキスト及 び参考書等	必要に応じ資料配布						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度	○		◎				60
受講者の発表							
授業への参加度			◎				30
その他		○			○		10
	ゲーム(試合)						
合計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画(学習内容・キーワードとスケジュール)							
第1週	オリエンテーション(グループ分け、授業の進め方、授業内容等)						
第2週	自分の体力について知る						
第3週	ストレッチング、コンディショニングについて						
第4週	プロジェクトアドベンチャー						
第5週	走の運動遊び						
第6週	ボール運動①(コーディネーショントレーニング)						
第7週	ボール運動②(基本練習)						
第8週	ボール運動③(試しのゲーム)						
第9週	ボール運動④(リーグ戦)						
第10週	ニュースポーツ①(ルールの概要とチーム分け)						
第11週	ニュースポーツ②(基本練習)						
第12週	ニュースポーツ③(試しのゲーム)						
第13週	ニュースポーツ④(リーグ戦)						
第14週	ニュースポーツ⑤(リーグ戦②)						
第15週	まとめ(これからの健康・体力づくりへの取り組み等)						
第16週							
備考	授業には必ず運動のできる服装(ジャージ・運動靴の着用)で参加すること。タオル、飲み物(ペットボトル可)は各自用意すること。自分自身の健康のために身体を動かすこと。そのためにどのような考えかたをし、健康管理していくかを身につけること。授業計画の各週の授業内容はあくまで予定であり、多少の変更が出る場合があります。						

科目名	ウェルネス・スポーツ【健栄】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	近 藤 芳 昭・山 津 満 代						
開講年次	2	開講期	通年 (隔週)	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	本授業では、これまでの運動やスポーツ活動と新たなスポーツを通して、生涯スポーツへつなげるために必要な知識や技術および態度を身につけることができるよう指導する。さらに、健康づくりのために日常生活に活かせるジョギングの方法やシューズや水分摂取などの安全対策について説明する。						
授 業 の 到 達 目 標	①知識・理解 ・各種のスポーツのルールを理解し、説明できる。 ②思考・判断 ・各自の体力や運動能力に応じて実技を実践できる。 ・安全に気を配り、他者への配慮ができる。 ③関心・意欲・態度 ・積極的に実技に参加し、みんなで楽しくスポーツを行う。 ・スポーツ（身体運動）を継続的、習慣的に実践する意識と方法を身につける。 ・コミュニケーションをとり、協力してスポーツが実践できる。 ④技能・表現 ・ジョギングの基本的フォームが実践でき、運動強度の把握のための心拍数計測ができる。 ・安全で健康づくりに役立つジョギングが実践できる。						
学習方法	実技						
テキスト及 び参考書等	必要に応じてプリントを配布する。						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度	○		◎				60
受講者の発表							
授業への参加度			◎				30
その他		○			○		10
	ゲーム（試合）						
合 計							100
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	オリエンテーション（グループ分け、授業の進め方、授業内容）						
第 2 週	ジョギングの基礎 ①ジョギングフォーム ②スピードと心拍数						
第 3 週	ジョギングの実際						
第 4 週	レク・ハイキング（日の隈山）						
第 5 週	ニュースポーツ・フライングディスク						
第 6 週	ニュースポーツ・ターゲットバードゴルフ						
第 7 週	ニュースポーツ・グランドゴルフ						
第 8 週	ニュースポーツ・ペタンク						
第 9 週	ニュースポーツ・インディアカ						
第 10 週	ニュースポーツ・ユニホック						
第 11 週	ソフトボール						
第 12 週	ソフトボール						
第 13 週	サッカー						
第 14 週	サッカー						
第 15 週	全体講義（これからの健康づくりへの取り組み等）、まとめ						
第 16 週							
備 考	体調を整え、実施種目の競技規則などを事前に調べて授業に参加すること。なお、実技ができる服装を着用すること。						

科目名	ウェルネス・スポーツ【社福】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	管 原 正 志・山 津 幸 司						
開講年次	2	開講期	通年 (隔週)	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	本授業では、生涯スポーツへの結びつきをねらいとし、初年次のニュースポーツを用いた身体運動に加え、従来のスポーツ種目を取り入れることで幅広いスポーツ（身体運動）を経験する機会を提供しつつ、スポーツ（身体運動）活動の習慣化に必要な能力と態度を身につけることができるように教授する。また、健康づくりのために日常生活に活かせるジョギングの方法やシューズ、水分摂取等の安全対策についても説明する。						
授 業 の 到 達 目 標	【知識・理解】 ・健康づくりを目的とした身体運動を実施する際の注意点を理解する。 ・実施スポーツのルールや特性を理解する。 【思考・判断】 ・自分の健康・体力について考えることができる。 ・自分に適したスポーツ（身体運動）について考えることができる。 【関心・意欲・態度】 ・実施スポーツをチームで協力し楽しく行うことができる。 ・スポーツ（身体運動）を生涯を通じて実践する意欲を持つことができる。 【技能・表現】 ・ストレッチングを効果的に行うことができる。 ・運動強度の把握のための心拍計測ができる。						
学習方法	実技						
テキスト及び参考書等	必要に応じてプリントを配布する。						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度	○		◎			60	
受講者の発表							
授業への参加度			◎			30	
その他		○			○	10	
	ゲーム（試合）						
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	ストレッチングの特長と効能						
第 2 週	ジョギングの基礎 ①ジョギングフォーム ②スピードと心拍数						
第 3 週	ジョギングの実際						
第 4 週	サッカー（ルール説明と基本練習）						
第 5 週	サッカー（ゲーム）						
第 6 週	キックベースボール						
第 7 週	ティーボール						
第 8 週	ソフトボール（ルール説明と基本練習）						
第 9 週	ソフトボール（ゲーム）						
第 10 週	バドミントン（ルール説明と基本練習）						
第 11 週	バドミントン（シングル・ダブルスゲーム）						
第 12 週	卓球（ルール説明と基本練習）						
第 13 週	卓球（シングル・ダブルスゲーム）						
第 14 週	障害者スポーツ（卓球バレー）						
第 15 週	全体講義（これからの健康づくりへの取り組み等）、まとめ						
第 16 週							
備 考	体調を整え、各種目のルールについて調べて授業に参加すること。 なお、実技ができる服装を着用すること。						

科目名	ウェルネス・スポーツ【リハビリ】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	福 本 敏 雄・音 成 道 彦						
開講年次	2	開講期	通年 (隔週)	単位数	1	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	健康づくりコースでは、生涯スポーツへの結びつきを目標に、身体活動・スポーツ活動の習慣化に必要な能力と態度を身につけることができるよう指導する。種々のニュースポーツに触れ、楽しく運動習慣を身に付かせる。また、各自のこれからの健康づくりに役立てるとともに、家族、地域、職場で活用し、その時に指導的役割ができる能力が養えるよう教授する。						
授 業 の 到 達 目 標	①知識・理解 ・各種のスポーツのルールを理解し、説明できる。 ②思考・判断 ・運動、スポーツの実践を通して、健康や体力の向上に役立てることができる。 ・各自の体力や運動能力に応じて実技を実践できる。 ・安全に気を配り、他者への配慮ができる。 ③関心・意欲・態度 ・ニュースポーツを通して楽しく運動ができる。 ・ボールを使って楽しく運動ができる。 ・スポーツ（身体運動）を継続的、習慣的に実施する意識と方法を身につける。 ④技能・表現 ・チームで協力し、楽しくスポーツが実践できる。						
学習方法	実技						
テキスト及 び参考書等	必要に応じてプリントを配布する。						
評価基準・方法	到 達 目 標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度	○		◎			60	
受講者の発表							
授業への参加度			◎			30	
その他		○			○	10	
	ゲーム（試合）						
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
第 1 週	オリエンテーション（グループ分け、授業の進め方、授業内容）						
第 2 週	ストレッチ、コンディショニング						
第 3 週	ボール運動						
第 4 週	バドミントン（基本練習とルール説明）						
第 5 週	バドミントン（ゲーム）						
第 6 週	テニス（基本練習）						
第 7 週	テニス（基本練習とゲーム）						
第 8 週	レク・ハイキング（日の隈山）						
第 9 週	卓球（基本練習シングル）						
第 10 週	卓球（基本練習ダブルス）						
第 11 週	卓球（ゲーム）						
第 12 週	卓球（ゲーム）						
第 13 週	ニュースポーツ（インディアカ）						
第 14 週	ニュースポーツ（ターゲットバードゴルフ）						
第 15 週	全体講義（これからの健康づくりへの取り組み等）、まとめ						
第 16 週							
備 考	体調を整え、実技ができる服装で参加すること。授業場所を事前に確認すること。						

科目名	ウェルネス・スポーツ【子ども】					開講 キャンパス	神園
担当者	松本大輔						
開講年次	2	開講期	通年	単位数	1	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	生涯スポーツへの結びつきを目標に、運動・スポーツ活動の習慣化に必要な能力と態度を身につけることを目的とする。文化としてのスポーツの意味や価値について、また生涯スポーツにおけるスポーツとのかかわり方について説明するとともに、具体的なスポーツ実践法についても解説する。なお、授業は、教材として取り扱う運動・スポーツ種目（以下、「スポーツ教材」とする）のおもしろさを探求する活動を通じて運動実践力が身につけられるような内容とする。						
授業の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 文化としてのスポーツの意味や価値について理解し実践する事ができる 2) スポーツ教材に関心を持ち、意欲的に取り組むことができる。 3) スポーツ教材の「特有の面白さ」について述べる事ができる。 4) スポーツ教材の実践を通じて、協調性、コミュニケーション能力を高める。 5) 現代社会における運動・スポーツ実践の重要性とその意義を述べる事ができる。 6) ライフスタイルに応じた生涯スポーツの実践に関心を持つようになる。 7) 運動・スポーツ実践の心身への効果を体感し、体力の向上に役立てることができる。 8) スポーツ教材の基本動作、個人・集団スキル、戦術をゲームの中で実践できる。 9) スポーツ教材の技術および戦術の練習計画を立案し、実践できる。 10) スポーツ教材のルールおよび審判法を理解し、ゲーム運営ができる。 11) スポーツ教材の用器具の使用法および管理法を理解し、実践できる。 						
学習方法	実技						
テキスト及 び参考書等	テキスト：テキストは使用しない。授業中に学習内容に応じた資料を配布する。 参考図書：適宜紹介する。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験							
小テスト等							
宿題・授業外レポート							
授業態度	○		◎			60	
受講者の発表							
授業への参加度		○		◎		30	
その他				○		10	
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
前 期	第1週	オリエンテーション：授業の内容および進め方					
	第2週						
	第3週	遊びとスポーツ①：文化としてのスポーツについて①					
	第4週						
	第5週	遊びとスポーツ②：文化としてのスポーツについて②					
	第6週						
	第7週	遊びとスポーツ③：文化としてのスポーツについて③					
	第8週						
	第9週	ネット型（室内）①：試しのゲーム、グループ分け					
	第10週						
	第11週	ネット型（室内）②：個人および集団の特性を活かした戦術を取り入れたゲームの展開					
	第12週						
	第13週	ネット型（室内）③：個人および集団スキルの上達、戦術の修正・工夫を企図した練習計画の立案と実践					
	第14週						
	第15週	ネット型（室内）④：まとめのゲーム					
	第16週						
後 期	第1週	遊びとスポーツ④：スポーツとのかかわり方について①					
	第2週						
	第3週	遊びとスポーツ⑤：スポーツとのかかわり方について②					
	第4週						
	第5週	ゴール型（室内）①：試しのゲーム、グループ分け					
	第6週						
	第7週	ゴール型（室内）②：個人および集団の特性を活かした戦術を取り入れたゲームの展開					
	第8週						
	第9週	ゴール型（室内）③：個人および集団スキルの上達、戦術の修正・工夫を企図した練習計画の立案と実践					
	第10週						
	第11週	ゴール型（室内）④：まとめのゲーム					
	第12週						
	第13週	遊びとスポーツ⑥：生涯スポーツを考える					
	第14週						
	第15週						
	第16週						
備考	授業には必ず運動のできる服装（ジャージ・運動靴の着用）で参加すること。タオル、飲み物（ペットボトル可）は各自用意すること。授業計画の各週の授業内容はあくまで予定であり、多少の変更が出る場合があります。						

科目名	情報処理基礎【健栄】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	古 賀 浩 二						
開講年次	1	開講期	通年	単位数	2	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	本授業は、皆さんが今後避けて通れない情報技術の中で、情報リテラシーと呼ばれる情報機器に関わる知識、それを使用した文書・表の作成、編集などについて解説し、更に上級学年での実験や卒業研究等で行うデータの加工・簡単な統計処理が行える技術を学習します。						
授業の 到達目標	<p>習得したコンピュータハードウェアの知識を利用してパソコンの取扱説明書などの内容が理解できる。</p> <p>習得したOSの機能や操作方法を利用して、デジタルデータをコンピュータで管理・利用できる。</p> <p>簡単なビジネスレターのレイアウト作成ができ、その作成方法を説明できる</p> <p>習得したワープロ操作技術を利用して、レポート等の文書作成が行える。</p> <p>簡単な表計算関数の機能や利用方法を説明できる</p> <p>表計算プログラムの機能やその関数の適用方法を自ら考え、応用できる。</p> <p>簡単な統計計算とそれに関わる関数を理解し、問題に応じて適宜利用することができる。</p> <p>与えられた簡単な文書や表・グラフなどを限られた時間内で作成することができる</p> <p>実習や実験の結果を表としてまとめたり、グラフを使った文書を作成できる。</p>						
学習方法	講義を行い、その後実際にコンピュータを使用した演習を行い操作方法を身につけます。						
テキスト及 び参考書等	30時間でマスターワード&エクセル2007						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○		○	60		
小テスト等	○		○		20		
宿題・授業外レポート							
授業態度			○		20		
受講者の発表							
授業への参加度							
その他							
合計					100		
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
通 年	第1週	学内コンピュータ構成と機能・電子メール基礎					
	第2週	コンピュータの基礎知識・機器の使用方法					
	第3週	OSの基礎知識、ホームページの閲覧方法の紹介					
	第4週	MS-Windowsによるデータ管理、プログラム管理					
	第5週	日本語入力の方法、日本語入力練習					
	第6週	MS-Wordの機能と操作					
	第7週	MS-Wordによる簡単な文書作成(演習)					
	第8週	MS-Wordによるビジネスレター作成(演習)					
	第9週	表を含む文書の作成(演習)					
	第10週	MS-Wordを使用した図の作成(演習)					
	第11週	前半の復習とまとめ					
	第12週	小テスト					
	第13週	表計算ソフトウェアの機能と操作					
	第14週	MS-Excelを使った簡単な表の作成(演習)					
	第15週	小テスト返却他					
	第16週	オートフィルとは					
	第1週	表計算ソフトウェアにおける数式の使用					
	第2週	数式を使用した表の作成(演習)					
	第3週	様々な関数1					
	第4週	様々な関数2					
	第5週	MS-Excelを使ったグラフの作成(演習)					
	第6週	様々な関数3					
	第7週	様々な関数4					
	第8週	関数・集計とピボットテーブルの利用(演習)					
	第9週	関数・集計とピボットテーブルの利用(演習)					
	第10週	Excelによる簡単な統計処理(記述統計とは、度数分布図を描く)					
	第11週	Excelによる簡単な統計処理(相関と近似直線)					
	第12週	Excelによる簡単な統計処理(散布図を描く)					
第13週	近似直線を用いた簡単な例題(演習)						
第14週	後半の復習とまとめ						
第15週	小テスト						
第16週	小テスト返却他						
備考	<p>前回の講義で行った内容をベースに次の講義が進みます。講義を欠席すると次の講義は極端に理解しづらくなりますので、病気などで欠席したり講義中の居眠りがないよう日頃から体調管理に注意してください。授業前の事前学習には情報処理演習室を積極的に利用すること。また、事後学習として本科目以外の科目におけるレポート作成などにも積極的にコンピュータを使用し、授業に臨んでください。</p> <p>理解できないときは積極的に質問をしてください。</p> <p>※出席は評価対象とはじませんが、欠席は授業への取組姿勢不足として減点します。</p>						

科目名	情報処理基礎【社福・スポ】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	高 元 宗一郎						
開講年次	1	開講期	通年	単位数	2	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	コンピュータは、私たちの生活には欠かせないものとなっています。そのコンピュータを効率よく利用するための基礎知識を講義し、利用方法の演習を行います。具体的には、コンピュータの基礎知識、インターネットの基礎知識及び活用方法、文書やプレゼンテーション資料の作成方法、表計算ソフトによるデータ表現方法の講義及び演習を行います。						
授 業 の 到達目標	①知識・理解 1) コンピュータやインターネットの仕組みを簡単に説明することができる。 2) 統計に関する基本的な用語を簡単に説明することができる。 ②思考・判断 1) 与えられたデータから、そのデータの特徴を指摘することができる。 2) 与えられたデータを視覚的に表現する際に、適切な表現方法を選択することができる。 ③関心・意欲 1) 文書を作成する際に、ソフトや文書の特性、対象者等を考慮して創意工夫を行う。 ④態度 1) 積極的に課題に取り組む。 ⑤技能・表現 1) 簡単なチラシや公文書を効率よく作成することができる。 2) 簡単なプレゼンテーションの資料を効率よく作成することができる。 3) 表を作成し、計算を行うことができる。 4) データの簡単な統計処理を行うことができる。						
学習方法	講義及びパソコンを用いた演習を行います。						
テキスト及び参考書等	テキスト：30時間でマスターワード&エクセル2007、実教出版株式会社。 また、適宜プリントを配布します。						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○	○	○		50	
小テスト等							
宿題・授業外レポート	○	○	○	○		40	
授業態度				○		5	
受講者の発表							
授業への参加度				○		5	
その他							
合 計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
通 年	第1週	情報処理とは？コンピュータの基礎知識					
	第2週	インターネットの基礎知識、ホームページの閲覧方法とその有効利用					
	第3週	タッチタイピングと日本語入力					
	第4週	MS-Wordの機能と操作 (ファイルの操作、表示方法等)					
	第5週	MS-Wordの機能と操作 (文字の入力方法、分の入力、ページ設定、印刷等)					
	第6週	MS-Wordによる文書の作成 (文書作成、複写・削除・移動等)					
	第7週	MS-Wordによる文書の作成 (編集機能：レイアウト、箇条書き、文字飾り等)					
	第8週	MS-Wordによる文書の作成 (編集機能：表の作成、オブジェクトの挿入等)					
	第9週	MS-Wordによる文書の作成 (簡単なチラシの作成演習)					
	第10週	MS-Wordによる公文書の作成 (公文書の構成と作成)					
	第11週	MS-Wordによる公文書の作成 (公文書の作成演習)、まとめ					
	第12週	MS-PowerPointの機能と操作 (基本操作等)					
	第13週	MS-PowerPointによる資料の作成 (文字の入力、デザイン設定、イラストの挿入、スライドショーの実行等)					
	第14週	MS-PowerPointによる資料の作成 (グラフや図形の挿入、アニメーションの設定等)					
	第15週	MS-PowerPointによるプレゼンテーション (資料作成の演習)、まとめ					
	第16週	試験					
	第17週	MS-Excelの機能と操作 (データ入力の基礎)					
	第18週	MS-Excelによる表の作成 (基本的なワークシートの編集)					
	第19週	MS-Excelによる表の作成 (ワークシートの書式設定)					
	第20週	MS-Excelによる計算 (関数の利用 (1))					
	第21週	MS-Excelによる計算 (関数の利用 (2))					
	第22週	MS-Excelによるデータの表現 (グラフの作成)					
	第23週	MS-Excelによるデータの表現 (グラフの設定の変更)					
	第24週	MS-Excelによるデータ処理 (ピボットテーブルとデータベース機能)					
	第25週	MS-Excelによる統計処理 (統計の基礎)					
	第26週	MS-Excelによる統計処理 (記述統計の概要)					
	第27週	MS-Excelによる統計処理 (推測統計の概要)					
	第28週	MS-Excelによる統計処理 (統計の演習)					
	第29週	他のソフトとの連携					
	第30週	他のソフトとの連携					
	第31週	まとめ					
	第32週	試験					
備 考	演習が中心の講義となりますので、極力欠席しないようにしてください。もし、欠席した場合は、各自で講義内容を把握するように努めてください。 講義終了時に次回の内容を紹介いたしますので、事前学習として教科書に目を通してください。また、講義終了後は、演習内容を確実に身につけるようにしてください。 なお、上記授業計画はあくまで予定であり、講義の進捗によって若干内容を変更する場合があります。						

科目名	情報処理基礎【リハビリ】					開講 キャンパス	神 埼
担当者	古 賀 浩 二						
開講年次	1	開講期	通年	単位数	2	必修・選択	必 修
授業の概要 及びねらい	本授業は、皆さんが今後避けて通れない情報技術の中で、情報リテラシーと呼ばれる情報機器に関わる知識、それを使用した文書・表の作成、編集などについて解説し、更に上級学年での実験や卒業研究等で行うデータの加工・簡単な統計処理が行える技術を学習します。						
授業の 到達目標	<p>習得したコンピュータハードウェアの知識を利用してパソコンの取扱説明書などの内容が理解できる。</p> <p>習得したOSの機能や操作方法を利用して、デジタルデータをコンピュータで管理・利用できる。</p> <p>簡単なビジネスレターのレイアウト作成ができ、その作成方法を説明できる</p> <p>習得したワープロ操作技術を利用して、レポート等の文書作成が行える。</p> <p>簡単な表計算関数の機能や利用方法を説明できる</p> <p>表計算プログラムの機能やその関数の適用方法を自ら考え、応用できる。</p> <p>簡単な統計計算とそれに関わる関数を理解し、問題に応じて適宜利用することができる。</p> <p>与えられた簡単な文書や表・グラフなどを限られた時間内で作成することができる</p> <p>実習や実験の結果を表としてまとめたり、グラフを使った文書を作成できる。</p>						
学習方法	講義を行い、その後実際にコンピュータを使用した演習を行い操作方法を身につけます。						
テキスト及 び参考書等	30時間でマスターワード&エクセル2007						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○		○		60	
小テスト等	○			○		20	
宿題・授業外レポート							
授業態度				○		20	
受講者の発表							
授業への参加度							
その他							
合計						100	
(表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点)							
授業計画 (学習内容・キーワードとスケジュール)							
通 年	第1週	学内コンピュータ構成と機能・電子メール基礎					
	第2週	コンピュータの基礎知識・機器の使用方法					
	第3週	OSの基礎知識、ホームページの閲覧方法の紹介					
	第4週	MS-Windowsによるデータ管理、プログラム管理					
	第5週	日本語入力のしくみ、日本語入力練習					
	第6週	MS-Wordの機能と操作					
	第7週	MS-Wordによる簡単な文書作成(演習)					
	第8週	MS-Wordによるビジネスレター作成(演習)					
	第9週	表を含む文書の作成(演習)					
	第10週	MS-Wordを使用した図の作成(演習)					
	第11週	前半の復習とまとめ					
	第12週	小テスト					
	第13週	表計算ソフトウェアの機能と操作					
	第14週	MS-Excelを使った簡単な表の作成(演習)					
	第15週	小テスト返却他					
	第16週	オートフィルとは					
年	第1週	表計算ソフトウェアにおける数式の使用					
	第2週	数式を使用した表の作成(演習)					
	第3週	様々な関数1					
	第4週	様々な関数2					
	第5週	MS-Excelを使ったグラフの作成(演習)					
	第6週	様々な関数3					
	第7週	様々な関数4					
	第8週	関数・集計とピボットテーブルの利用(演習)					
	第9週	関数・集計とピボットテーブルの利用(演習)					
	第10週	Excelによる簡単な統計処理(記述統計とは、度数分布図を描く)					
	第11週	Excelによる簡単な統計処理(相関と近似直線)					
	第12週	Excelによる簡単な統計処理(散布図を描く)					
	第13週	近似直線を用いた簡単な例題(演習)					
第14週	後半の復習とまとめ						
第15週	小テスト						
第16週	小テスト返却他						
備考	<p>前回の講義で行った内容をベースに次の講義が進みます。講義を欠席すると次の講義は極端に理解しづらくなりますので、病気などで欠席したり講義中の居眠りがないよう日頃から体調管理に注意してください。授業前の事前学習には情報処理演習室を積極的に利用すること。また、事後学習として本科目以外の科目におけるレポート作成などにも積極的にコンピュータを使用し、授業に臨んでください。</p> <p>理解できないときは積極的に質問をしてください。</p> <p>※出席は評価対象とはじませんが、欠席は授業への取組姿勢不足として減点します。</p>						

科目名	情報処理基礎【子ども・心理】					開講 キャンパス	神園
担当者	桑原雅臣						
開講年次	1	開講期	通年	単位数	2	必修・選択	必修
授業の概要 及びねらい	情報処理機器類の歴史的發展を背景としたデジタル情報の初歩的処理方法について学習する。また、コンピュータと通信技術を融合したネットワーク社会における情報検索とその活用についても習得する。さらに、ワードプロセッサと統合型表計算及びプレゼンテーションツールなどのビジネスアプリケーションソフトウェアの基礎的な操作と活用方法について演習する。						
授業の 到達目標	1) コンピュータの論理的処理方法を理解できる。 2) 学内LANとインターネットの活用ができる。 3) ワードプロセッサを活用して、各種資料の作成と編集ができる。 4) 統合型表計算ソフトウェアを利用して、必要な計算（関数）および表とグラフを作成できる。 5) 統合型表計算ソフトウェアの簡易データベース機能とピボット機能（テーブル・グラフ）を利用して、基礎的なデータ活用と分析ができる。 6) プレゼンテーション用ツールを活用して、多彩なスライド資料を制作できる。 7) プレゼンテーション用ツールを使用して、テーマに沿った発表が要領良く人前でできる。						
学習方法	学内LAN端末パーソナルコンピュータを操作・活用し、講義とテキストに沿って各種課題を演習する。						
テキスト及び参考書等	テキスト：「情報リテラシー Office 2007」富士通エフオーエム(株)著作／制作（FOM出版）2,000円（税別）						
評価基準・方法	到達目標					評価割合%	
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲・態度	技能・表現			
定期試験	○	○				30	
小テスト等	○			○		30	
宿題・授業外レポート							
授業態度			○			10	
受講者の発表				○		20	
授業への参加度			○			10	
その他							
合計						100	
（表中の記号 ○評価する観点 ◎評価の際に重視する観点）							
授業計画（学習内容・キーワードとスケジュール）							
通 年	第1週	情報処理機器の発展とコンピュータの論理的処理方法の基本【情報科学・論理構造・データ】					
	第2週	イントラネット（学内LAN）とインターネットの仕組みと操作方法【ネットワーク】					
	第3週	ワードプロセッサの画面構成と基本操作【メニュー】					
	第4週	レポートの作成（Ⅰ）（文字の入力、日本語変換、文書の保存）【文書作成・入力変換】					
	第5週	レポートの作成（Ⅱ）（文字の配置、フォントの編集）【文書編集】					
	第6週	レポートの印刷（プレビュー、ページ設定）【印刷】					
	第7週	レポートへの図の挿入と編集【画像】					
	第8週	レポートの校正【校正・校閲】					
	第9週	ワードプロセッサの拡張機能の活用【便利機能】					
	第10週	統合型表計算ソフトウェアの画面構成と基本操作【表計算ツール】					
	第11週	セルへのデータ入力と表の作成【セル・入力・作表】					
	第12週	計算式の作成と組込み関数の利用（Ⅰ）【計算・関数の基本】					
	第13週	計算式の作成と組込み関数の利用（Ⅱ）【計算・関数の応用】					
	第14週	ワークシートとブックの連携活用【データ連携】					
	第15週	各種書式の編集【書式】					
	第16週	基本グラフの作成【グラフ】					
	第17週	グラフ資料の作成【複合グラフ・その他グラフ】					
	第18週	データベース機能【並べ替え・抽出】					
	第19週	データベース機能【詳細設定・小計】					
	第20週	ピボットテーブルの作成と活用【分析表】					
	第21週	ピボットグラフの作成と活用【分析グラフ】					
	第22週	マクロの作成【自動化】					
	第23週	マクロの利活用【フォームコントロール・VBA】					
	第24週	プレゼンテーションツールの画面構成と基本操作【メニュー】					
	第25週	スライド作成の基本【スライド構成】					
	第26週	スライド作成の応用【スライドレイアウト】					
	第27週	スライドへの各種コンテンツと効果の挿入【効果】					
	第28週	スライドとツールを活用した演習発表【実践】					
	第29週	ワードプロセッサと表計算及びプレゼンテーション各アプリケーション間のデータ相互連携【ビジネス資料】					
	第30週	まとめと総合課題演習（試験を含む）					
	第31週						
	第32週						
備考	1) 授業の到達目標は、自己学習の達成度を知る目安となるものです。学習の進捗に合わせて自己点検評価を行なってください。 2) 授業計画の各週授業内容は、あくまでも予定であり、進捗に多少の変更が出る場合があります。 3) キーワードは、その授業で取り上げる主な事項を示しています。各自の予習と復習などに利用してください。						